

三重大学ベトナムフィールドスタディ
2016
報告書



2017年5月
三重大学ベトナムフィールドスタディ 2016
参加者一同

目次

はじめに.....	3
I. 概要.....	5
1. 実施概要.....	5
2. 全体日程.....	6
3. 参加者氏名.....	7
4. 受入れ先基本情報.....	8
5. ベトナム基礎情報.....	9
II. 事前準備.....	10
III. 訪問先・授業参加報告(感想).....	12
1. 戦争証跡博物館.....	13
2. 統一会堂.....	14
3. クチトンネル.....	15
4. 水上人形劇について.....	16
5. ベトナム国防総省175病院に見る、ベトナムの医療.....	18
6. ホーチミン市内の観光地・街歩き(1).....	20
7. ホーチミン市内の観光地・街歩き(2).....	22
8. ベトナム語の授業(1)ベトナム学生との自習.....	23
9. ベトナム語の授業(2)Than先生のベトナム語の講義.....	24
10. ベトナム文化の授業.....	25
IV. 最終発表.....	29
1. 教育グループ.....	30
2. 歴史・宗教・伝統文化・生活グループ(1).....	32
3. 歴史・宗教・伝統文化・生活グループ(2).....	34
4. 都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ(1).....	36
5. 都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ(2).....	40
6. (参考)発表メモ.....	42

V. 感想	45
牧 知香 (教育学部教員養成課程社会科教育コース2年).....	46
栗林 美波 (人文学部法律経済学科2年)	48
眞鍋 岳男 (医学部看護学科4年).....	50
繁田 怜奈 (生物資源学部生物圏生命科2年).....	53
吉田 奈央 (人文学部文化学科2年).....	55
森田 真衣 (人文学部文化学科2年)	57
福井 彩帆 (生物資源学部生物圏生命科学科1年)	59
宮崎 茜 (人文学部文化学科2年)	61
西川 侑見 (工学部建築学科2年)	64
伊藤 悠斗 (教育学部教員養成課程理科教育コース3年)	66
おわりに	68

VI. 巻末資料

1. ホーチミン市師範大学との合同フィールド調査グループ分け
2. 日直業務
3. 修了証書授与式

はじめに

今回のベトナムフィールドスタディは2月26日から3月7日まで10日間で行われました。年ごとに学生の関心も高まっているようで、今年度も説明会には多数の学生が参加してくれました。結果的に12名の応募があり、いろいろな事情で残念ながら参加できなかった学生も出ましたが、最終的に10名の学生がホーチミン市を訪問し、フィールドワークを実施して無事に帰国しました。

これまでのフィールドスタディと大きく異なる点は、ホーチミン市師範大学でのベトナム語とベトナム文化の授業を入れたことです。またフィールドスタディに企業や諸機関でのインタビュー調査を加えることで、学生が主体となって訪問先を考えるようにしました。これは、ベトナムの学生と一緒に授業を受け、また日本人学生だけでなく、ベトナムの学生とともにテーマや調査方法について話し合い、調査を実施し、とりまとめ、発表するようにしたものです。こうすることで一緒に共感し、考え、共に学び合うようにしました。

ベトナムは日本と同じアジアにあり、距離的にも近く、また文化的にも類似したところもあります。親日的で日本語を学ぶ学生も非常に多く、日本への関心も高い国です。経済成長も著しく、ホーチミン市は国際都市の様相も持っています。そうしたベトナムと日本との関係は、単に先進国と発展途上国という捉え方だけでは相互理解に繋がらないことも考えられます。そのためお互いに尊重しあうことを体感してもらいたいと思いました。

一方で、たとえベトナムの人が日本に関心が高いといっても、そこは異国です。言葉も通じない、考え方や習慣も異なる学生どうしで、いろいろな葛藤が生じることがあります。そうした状況において共に学びあう中で、お互いにお互いを知ろうということに繋がっていくのではと考えました。

三重大大学の学生たちは、出発までにグループで話し合っただけでテーマや訪問先、調査内容を検討して、自分たちでアポを入れたりするなど準備をしていました。出発間際になるまで、なかなかテーマが固まらないこともありましたが、そこはまだ行ったこともない国なので、何かと想像しづらかったのかもしれませんが、しかしながら、ベトナムに到着し、プログラムが始まると、ホーチミン市師範大学の学生が組んでくれた共同グループで、調査の希望を伝え、相談し、調査方法の詳細を話し合い、計画を立てて企業や寺院、学校を訪問したり、アンケート調査を実施したりしました。なかなか自分たちの考えを伝えることに苦慮したようですが、苦勞した分だけ主体的、積極的になったのではないかと思います。

そうした活動の合間には、学内だけでなく学外でも一緒に食事をするようになり、ベトナムの学生の自宅で最終発表の準備をしたりするなど、私たち引率者の予想以上のグループ活動が行われました。いずれも、ベトナムの学生が積極的に参加してくれて、私たち日本人学生を引っ張ってくれたのだと感じました。

また、ベトナムの歴史や文化を学ぶために、ベトナム戦争証跡博物館、統一会堂、クチトンネルを訪問したり、水上人形劇を鑑賞したりしましたが、いずれもベトナムの学生も

一緒に来て案内や通訳をしてくださいました。これには私たちもベトナムの学生が自分たちの文化や社会について多く知っていることに驚きました。

そして、ホームステイでは（この報告書では、ホームステイについての項目を作らなかったのですが）、ホーチミン市師範大学の学生のご家庭に宿泊させて頂きました。どのご家庭でも非常に暖かく迎えて頂き、行く前は不安な表情だった学生が、翌日ホテルに戻ってきたときには、本当に楽しかったという最高の笑みを満杯に浮かべていたのを見て、本当に貴重な体験をしたのだと強く感じました。いずれのご家庭でも言葉が通じないこともあったでしょうし、生活習慣の違いもあったと思いますが、ベトナムの学生が一つ一つ説明してくれたり、通訳してくれたりしたようです。そうした中で、異文化とはどのようなもので、交流するとはどのようなことなのか、一人ひとりが感じ、学んだのだと思います。

それ以外にも中央郵便局やサイゴン大教会、ベントイン市場やドンコイ通りなどの街歩きもして、最初は戸惑った道路の渡り方、料理の注文など学ぶことも多々あったと思います。更にホーチミン市師範大学長名での修了証書を頂けたことは、今後の励みにもなると思います。

この報告書は、こうした学生たちの率直な感想と、ベトナムでのフィールドスタディに真摯に取り組んだ記録です。是非、学生たちが何を学び得たのかを読み取っていただければ幸甚です。

最後になりましたが、このたび受け入れて下さったホーチミン市師範大学の学長ならびに関係各位、日本学科の教員や学生の皆さん、調査での訪問を受け入れて下さった企業の方々、教育グループの調査に便宜を図ってくださった和歌山大学教育学部の江田裕介先生（教授）、古井克憲先生（准教授）及び学生の皆さん、本学国際交流センターの皆様、その他ご協力くださった全ての方々に深く感謝申し上げます。（奥田久春）

I. 概要

1. 実施概要

実施期間：2017年2月26（土）～3月7日（火） 10日間

引率者： 国際交流センター 栗田聡子准教授、教養教育機構 奥田久春特任講師

行先：ベトナム社会主義共和国 ホーチミン市

訪問先：ホーチミン市師範大学 ホーチミン市内

プログラムの目的：

協定大学であるホーチミン市師範大学での授業や学生交流、フィールドスタディ、ホームステイの経験を通して、グローバルな視点や国際感覚を持ちながら主体的に行動し、参加メンバーと協力しながら活動を進め、また異文化にあって積極的にコミュニケーションを図ろうとするグローバル人材に求められる能力・資質を育成する。

プログラムの概要：

（1）ホーチミン市師範大でのベトナム語語学・文化学習

協定校であるホーチミン師範大日本語学科にて、ベトナムについての文化理解、語学学習。5回実施。最終日に、発表会を開催。

（2）フィールド調査の実施

学生主体でグループになってテーマを検討、計画、現地調査を実施する。

（3）施設訪問その他観光名所も訪問予定。

フィールド調査以外に、ベトナムの歴史などを学ぶためにベトナム戦争証跡博物館、クチトンネルなどを訪問。

（4）学生と家族との異文化交流

・師範大生宅で1泊2日のホームステイ。

参加費用：航空券代、海外旅行保険代、宿泊、食費等含め、計15万円ほど自己負担
（借上バスや、研修に係る入場料等の費用は大学負担）

募集方法：2016年10月12日に募集説明会を実施、10月31日まで全学の学生（学部1年生～大学院生）に公募。学生は応募時に参加の動機とベトナムに関心のあることを記述して申請。

2. 全体日程

月日	時間	内容
2月26日 (日)	8:00	中部国際空港集合
	10:30	中部国際空港発 (VN341)
	15:00	TSN 空港到着 (1時間遅れ)
	16:00頃	中央郵便局、サイゴン大教会見学
	17:30頃	ホテルチェックイン
2月27日 (月)	8:30~9:30	開講式: Hong 学長、Ms. Linh Chi、Ms. Lieu、学生 22名
	9:30~11:00	学生グループ分け、フィールド調査打合せ
	11:00~11:30	大学見学・学生交流、昼食
	13:30~15:00	ベトナム語入門 (1)
	15:30~17:30	ベントイン市場、ドンコイ通り
2月28日 (火)	8:00~9:30	ベトナム語入門 (2)
	10:00~11:30	ベトナム文化 (1)
	11:30~12:30	昼食会 (和歌山大学と合同)
	14:00~16:00	国防総省 175 病院見学
	17:00~18:00	水上人形劇
3月1日 (水)	8:00~9:30	ベトナム文化 (2)
	10:00~11:30	学生 フィールド調査打ち合わせ
	13:30~17:00	戦争証跡博物館、統一会堂
3月2日 (木)	8:00~	フィールド調査 教育グループ (Le Ngoc Han 小学校、Thuc Hanh 中学校)
	午前中	フィールド調査 歴史・文化グループ (覚林寺)
	14:00	フィールド調査 建築・経済グループ (エースコック社)
3月3日(金)	終日	フィールド調査訪問 (ベトナム博物館、街頭アンケートなど)
3月4日 (土)	8:00~15:00	クチトンネル、(昼食) イオンショッピングセンター
	17:00~	ホームステイ
3月5日 (日)	~13:00	ホームステイ
	午後	自由行動
3月6日 (月)	7:30	ホテルチェックアウト
	午前	学生交流・発表準備
	午後	全体発表会・教員による評価、修了証書授与式 Ms. Lieu
	18:00~	ホテルに戻り帰国準備
	19:00~	空港へ移動 イオンショッピングモールにて夕食
3月7日 (火)	0:40	TSN 空港発 (VN340)
	7:35	中部国際空港着

3. 参加者氏名

氏名	学部 学科・コース	学年
牧 知香	教育学部 社会科教育コース	2年
栗林 美波	人文学部法律経済学科	2年
眞鍋 岳男	医学部看護学科	4年
繁田 怜奈	生物資源学部生物圏生命科	2年
吉田 奈央	人文学部文化学科	2年
森田 真衣	人文学部文化学科	2年
福井 彩帆	生物資源学部生物圏生命科学科	1年
宮崎 茜	人文学部文化学科	2年
西川 侑見	工学部建築学科	2年
伊藤 悠斗	教育学部 理科教育コース	3年
(引率)奥田 久春	教養教育機構	特任講師
(引率)栗田 聡子	国際交流センター	准教授

応募申請順。また、上記の所属、学年はベトナムフィールドスタディ参加当時のものです（以降、本報告書に掲載している所属、学年は当時のもの）。現在はそれぞれ進級、就職しています。

4. 受入れ先の基本情報

受入大学：ホーチミン市師範大学 Trường Đại học Sư Phạm TP. Hồ Chí Minh

英語名：Ho Chi Minh City University of Education

- 1976 年開学
- 教育大学 (21 学部、11 専攻、32 コース)
- 学生数 53,646
- 専攻科学生：14,378 名 (留学生：100 名)

学 長：TS. Nguyen Kim Hong 准教授

副学長：TS. Nguyen Thi Minh Hong、Mr. Deng That

住所：280 An Dương Vương, Phường 4, Quận 5, TP.HCM

URL：<http://hcmup.edu.vn/>

データ出所：<http://hcmup.edu.vn/> (2017 年 2 月 21 日閲覧)

今回お世話になった先生方

総 合：Le Thi Hong Nga (Ms.) 日本語学部

主担当：Nguyen Trang (Ms.) 日本語学部

Linh Chi (Ms.)

ベトナム語の授業：Thanh (Ms.)

ベトナム文化の授業 Le Thuy Lieu (Ms.) 哲学科

5. ベトナム基礎情報



Google Map

面積：32万9,241 km²

人口：約9,270万人（2016年、ベトナム統計総局）

都市：ハノイ（首都、約650万人）、ホーチミン市（約720万人）、
ハイフォン（約190万人）カントー（約120万人）、ダナン（約90万人）

民族：キン族（86%）、53の少数民族

言語：ベトナム語

宗教：仏教、カトリック、カオダイ教

政体：社会主義共和国

元首：チャン・ダイ・グアン国家主席

政権：ベトナム共産党 党首グエン・フー・チョン書記長

首相：グエン・スアン・フック首相

産業：農林水産業、鉱業、軽工業

GDP：約2,019億米ドル（2016年、ベトナム統計総局）

一人当たりGDP：2,215米ドル（2016年、ベトナム統計総局）

経済成長率：6.21%（2016年、ベトナム統計総局）

出典：外務省 HP（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html>）

（2017年2月21日閲覧）

Ⅱ. 事前準備

ベトナムフィールドスタディでは、メンバー決定から出国までの期間に6回の勉強会を開き、準備を進めてきました。勉強会の内容は以下の通りです。

- 第1回勉強会 11月28日(水) 18:00~20:00
メンバーの顔合わせ、アイスブレイキング(他者紹介ゲーム)、フィールドスタディの目的の確認、事前勉強会の希望日の確認、ベトナム事前学習として「食べ物」「観光地」「おみやげ」の各分野を調べてくる担当者を決めました。また、各自の興味・関心に基づいたフィールドスタディのテーマ、訪問先や調査希望について検討してることとしました。出発日と帰国日、日数などを決めました。
- 第2回勉強会 12月14日(水) 18:00~20:00
ベトナム語学習(1):ベトナムからの留学生グエン・トゥイエットさんに講師をお願いして、簡単な挨拶、自己紹介の言葉を学びました。また各自が検討してきた関心に基づいて、フィールドスタディのテーマを出し合い、①都市計画・建築、経済、環境、日系企業、日越関係、②教育、英語教育、学校、日本語教育、③伝統、民族、生活様式、歴史、昔話、宗教の3つのテーマ群に絞りました。これらのテーマについて、更に情報を集め、調べたいこと、興味のあることを考えてくることとしました。航空賃の確定と支払いについて連絡し、行程案について確認しました。
- 第3回勉強会 1月11日(水) 18:00~20:00
ベトナム語学習(2):トゥイエットさんから、数字の教え方、レストランでの注文の仕方を学びました。また「食べ物」について担当者(繁田、前田)から調べた内容を報告しました。フィールドスタディのテーマを大きなテーマ群として3グループを作り、訪問地や調べたい内容について話合いました。
- 第4回勉強会 1月25日(水) 18:00~20:00
「観光地」について担当者(西川、宮崎、福井、伊藤)から調べた内容を報告しました。ベトナムの歴史(略史)について学びました。海外旅行保険や旅レジ、パスポートの写しなど旅行に必要な手続きについて確認しました。フィールドスタディの調査内容について更に話合いました。特に訪問地についてはアポを入れる必要があるため、検討を進めました。

- 第5回勉強会 2月15日（水）14：00～16:00
海外安全渡航について国際交流チームの秋保課長から説明を受けました。「おみやげ」について担当者（吉田、森田）から調べた内容を報告しました。出発までの準備や持っていくもの、携行必需品、旅程について確認しました。フィールドスタディで事前に調べて分かったこと、現地での調査計画について3グループが発表しあいました。
- 第6回勉強会 2月22日（水）16：00～18:00
旅程のほぼ最終案を確定させ、持ち物や集合時間、場所について最終確認をしました。また空港行きフェリー乗り場までのタクシーが不足していたため、車輛の手配、眞鍋さんにも一台出して頂くことなど話し合いました。

Ⅲ. 訪問先・授業参加 報告（感想）

各訪問先の概要やホーチミン市師範大学で受講した授業について報告します。なお、フィールド調査での訪問先（一部）についてはⅣ章の最終報告の内容をご覧ください。

1. 戦争証跡博物館

教育学部 学校教員養成課程 社会科教育コース 2年 牧知佳

ベトナムフィールドワークスタディ内で訪れた、ベトナム戦争証跡博物館はベトナム戦争の一連の歴史を展示した博物館である。ベトナム戦争は、現代の戦争ということもあり、その規模の大きさを伝えるためにさまざまな展示がなされている。実際に使われた戦車や大砲・爆弾・銃に関連する武器・実際の兵士が着た服などが展示されており、生々しい戦争の様子が伝わる。また、写真を多用した記録が残っており、それぞれの部屋において、アメリカ兵の常時の様子や戦闘中の様子、ベトナムの農村での戦争の前の豊かな様子と、戦争後の悲惨な様子もどちらも見ることができ、リアルな戦争の様子がみえた。枯葉剤によるさまざまな影響も写真で生々しく伝わってきた。

展示は基本的な部分では、ベトナム語と英語であるが、一部の展示の部分では日本語でも表記がなされており、日本人でもベトナム戦争についても知ることができた。

私個人的な感想として、私は将来高校の社会科の先生になりたいと考えており、そのために実際にベトナムに行き、見て、感じて、という自分の経験を伝えることができるのではないかと、という手ごたえがあった。また、戦争証跡博物館とクチトンネルでの経験を合わせてベトナム戦争について学ぶことができた。

博物館の展示についての感想として、日本での博物館は遺物を中心に展示しているため、戦争証跡博物館のような（現代のベトナム戦争の特性上、）写真を中心とした展示を初めて見た。今まで日本での第2次世界大戦などの戦争体験は伝え聞くが、ベトナム戦争でリアルな戦争の様子を見て、日本でも戦争による被害はこのように感じであったのか…、と今までの考え方が変わった。特に被害の写真もそうであるが、アメリカ兵や戦争の被害を受ける前のベトナムの農村の様子であったり、何気ない写真も多く、心をうたれたりした。たくさんの部屋があり、すべてをしっかりと見たかったが時間の都合上できなかつたので、ぜひもう一度自分で行って見てみたいと感じている。



2. 統一会堂

工学部 建築学科 2年 西川侑見

ホーチミン市の有名な観光スポットの多くはフランス統治時代の建物です。例えば、サイゴン大教会や中央郵便局です。そこはアジアの独特の色鮮やかさを持ちながら、ヨーロッパにいるような気分になれます。またホーチミン市は寺院も多くあり、色々な時代・文化の建物を味わうことが出来ます。その中で統一会堂は特別な意味のある建物です。

フランスの統治が終わり、ベトナムが独立国として世界に国民にアピールするためには元からあるフランス統治時代の建物を使っては意味がありません。かと言って伝統的な建物では、近代化し発展していこうという国のイメージとは離れしまいます。統一会堂はベトナムの近代化・独立を象徴する建物として設計されました。



この建物の近代建築手法は息をのむものばかりでした。平面は漢字の「吉」の形をしていて、中庭は静とアジアチックな自然がありました。まさにベトナム政府の目指した姿を体現していました。



3. クチトンネル

人文学部 文化学科 2年 宮崎茜

・概要

クチトンネルはホーチミン市内から北西へ約 70 km、現在のクチの町から離れた所にある地下トンネルである。ベトナム戦争時この地域に解放戦線の拠点がおかれ、鉄の三角地帯と呼ばれた難攻不落の場所であった。米国軍はこの地域に度重なる空爆と大量の枯葉剤を投下し、一面荒れ地と化した。全長 250 kmにも及ぶ手掘りのトンネルでゲリラ戦を展開し、抵抗を続け、最後まで攻略されなかったという。

・授業の概要

ベトナム人ガイドの説明を、事前学習してきたベトナム人学生が日本語で通訳をし、各所説明を加えてくれた。

まず当時の解放戦線、住民の生活の様子を描いた映画(日本語のナレーション)を鑑賞し、トンネルなど各施設を回る前に予備知識を頭に入れた。そしてガイドに付いて地下トンネルの中に入り、当時の厳しいゲリラ戦の様子を体験した。トンネルで繋がっている半地下の小屋はそれぞれ司令官室、病院、台所などの機能があり、爆弾造りの工程を人形で再現している小屋もあった。米国兵を陥れる罠やアメリカの戦車、爆撃跡も見学し、最後に当時の兵士たちが食べていたというタピオカの原料のキャッサバのイモを試食した。

・感想

クチトンネルはベトナム戦争関連施設であるが、戦争に対してポジティブである様な印象を受けた。しかしこれは戦争を推し進めようとするものではなく、当時の自分たちの勇敢さ、誉れを謳ったものという意味である。その意味で日本の原爆ドームや白百合の塔、ドイツの強制収容所跡などの他の戦争関連施設とは違う、前向きな印象を受けた。戦争関連施設は戦争の悲惨さを後世に伝え、二度と戦争の無い世界を願うために保存され、紹介されるものである。クチトンネルにもその意味合いはあり、大きな爆撃跡、爆弾やトンネルは当時の悲惨な出来事を伝えている。1966年 AP 通信において「ベトコンゲリラはどこにもいないし、どこにでもいる」と米国上官に言わしめたその武功を謳うと同時に、凄惨な戦争を後世に伝えている施設であった。



4. 水上人形劇について

生物資源学部 生物圏生命科学科 2年 繁田怜奈

今回、水上人形劇を鑑賞しました。水上人形劇とは、水上を舞台にカラフルに色を塗られた人形たちが、物語や音楽に沿って、縦横無尽に動き回る劇です。水上人形劇は、ベトナム語では「ロイ・ヌオック」と呼ばれ、1000年以上の歴史があります。1121年建立の石碑にも、宮廷で水上人形劇が催された様子が描かれているようで、王の前でも披露された格式ある芸能です。今回見た劇場は私が想像していたものよりも小さめで、舞台と客席との距離が近く、水しぶきが飛んできそうなほどでした。そのため、臨場感を味わうことが出来たと思います。ストーリーの多くはベトナムの民話や伝説がモチーフになっているようでした。観衆の多くは海外からの観光客のように見受けられました。劇の両サイドからは伝統楽器の生演奏が行われていました。笛と太鼓と声を使い、劇に沿った音楽が流れるところが、とても素晴らしいなと思いました。セリフはベトナム語で話されますが、わかりやすく派手なストーリーで、言葉が分からなくても、見ていて十分に理解して楽しむことが出来ました。一つ一つのストーリーは、短く次々と話に変化していく感じがしました。また、スピード感のある動きと、大きな音の音楽に合わせて人形が複雑に動き、それを見ているだけで、楽しいと思いました。そのため、言葉が分からなくても人形の速く、複雑な動きを見ているだけで十分に楽しむことが出来ました。また、その動きから、どのように動かしているのだろうか、機械で動いているのだろうかと思うほどでした。しかし、劇の最後に、水の中からパフォーマーが現れて挨拶をしてくれました。それを、見た時に人間の力で人形が動いていたということが分かり、感動しました。しかし、どのように人形を動かしているかということは、秘密とされているようで、実際に見ても不思議に思いました。また、人形は独特の派手な色彩で塗られており、人形の顔もとてもかわいらしい感じでした。日本の人形とはまた違った感じがして、海外の伝統芸能に触れ合っているという実感が持てました。劇の最後に花火が使われた演出があり、その派手さに驚かされました。その演出は海外のお祭りの風景に似ていたので、印象的でした。今回、このように海外の伝統芸能に触れ合う機会を得られて本当に良かったと思います。なぜなら、ベトナムの農耕文化や、民話について知識を深めることが出来たと思うし、ベトナムの音楽や色彩にも親しむことが出来たからです。また、ストーリーも分かりやすく、十分に楽しむことが出来たこともとても良かったと思います。したがって今回、このように水上人形劇を鑑賞出来て、とても良かったです。



5. ベトナム国防総省 175 病院に見る、ベトナムの医療

医学部 看護学科 4年 眞鍋岳男



ベトナム国防総省 175 病院について

ベトナム軍所属の病院で設立は1975年5月。面積は21ヘクタールとホーチミン市で最も大きな病院である。ベッド数は1500床と三重大病院は685床の2倍以上であり、職員数は総勢1400名（うち医療関係者1000名、看護師700名）と多くのスタッフがいる。ガンの最先端治療センターがあり、MRI、ライナックといった最先端の放射線診断装置、治療装置を備える。

ベトナムの医療の取り組み

・介護研修センターを建設中

175病院敷地内に日本式介護を学ぶための研修センターを設立、将来は30～60名ほどの研修生に半年から1年ほど日本語教育と介護の実技指導を行い、日本で3年ほど働いた後ベトナムに戻ってくる予定となっている。

現在のベトナムの高齢化率は日本と比べて非常に低い（8%ほど）であるが、急速に高齢化が進むと予想されており、今のうちから対策を取っている。

・看護師の養成をすべて大学で

現在、ベトナムの看護師養成は日本と同じく3年生の専門学校、4年生の大学の二つの方法があるが、2020年までにすべての看護師を大学で養成することとなっている。

ベトナムの医療の問題点

・少ない看護師の数

175病院はベッド数1500床と三重大病院の2倍以上の規模を誇るが、看護師の数

は700名と三重大学病院とほぼ同程度の人数しかいない。そのため、最先端のがん治療が受けられる病棟でも4フロア約200床あるにも関わらず、看護師の数は全部で50名ほど、ひとつのフロアには日勤の看護師が3名しか配置されない。

- ・不足するベッド数、医療機器

175病院はホーチン市内最大の病院ではあるがそれでも病床数が足りず、やむを得ず廊下にベッドをおいて入院させている。医療機器も十分な数があるとは言えず、薬剤の厳重な濃度管理が必要ながん患者に対しても、手落とし式の点滴を使用している。

6. ホーチミン市内の観光地・街歩き（1）

人文学部 文化学科 2年 吉田奈央



サイゴン大教会

19世紀末に建てられたカトリック教会。ネオロマネスク様式の建築で、外壁のレンガなどはフランスから運ばれたという。中に入ることはできなかったが、アオザイを着た人も教会の中に見ることができた。



中央郵便局

19世紀末のフランス統治時代の建物で、ガラスと鉄骨が大きなアーチを描いた天井が、欧米の古い駅のような芸術的建築である。お土産もたくさん売っているが、現役の郵便局である。



ベントイン市場

衣類からドライフルーツまで揃う、ホーチミン市の中央市場。

日本語で「お姉さん」「箸 安い」などと声を掛けられた。現地の学生によると、値段は少し高めだという。

夜は、市場は閉められる。



ドンコイ通り

観光客向けのお店が立ち並ぶ。日本語ができる店員がいるお店も多く、日本人でも過ごしやすい。服、アクセサリ、雑貨などが売られていた。外には、観光客がお店から出たところをターゲットとする売り子もしばしば見られた。

写真は市民劇場。19世紀に建築されたオペラハウスが、現在も劇場として使われている。



人民委員会庁舎・ホーチミン像

20世紀初頭に、フランス人向けのパブリックホールとして建てられた。夜はライトアップされる。

ホーチミン像の周りは、夜はとてものにぎやかで、現地の人でいっぱいになる。



グエンフエ通り

土日の夜は歩行者天国となり、観光客だけでなく現地の人も多く歩いている。サイゴン川に近くとても涼しい。

ちょうど、アオザイのファッションショーをしていて、賑やかだった。

7. ホーチミン市内の観光地・街歩き（2）

人文学部 法律経済学科 2年 栗林美波

まず中央郵便局について紹介します。

ヨーロッパ風の建物となっていて、入ると正面にはベトナムのお札にも描かれているホー・チ・ミンの肖像画が飾られており、内部は天井がアーチ型となっていてお洒落なデザインだと感じました。また、お土産も充実しており、観光客で大変賑わっていました。



次に紹介するのは、サイゴン大教会です。

教会の前には聖母マリア像が建っており、こちらも中央郵便局同様ヨーロッパ風の建物となっています。このような建物がみられるのは、元々ベトナムがフランスの植民地であった影響が大きいと考えられます。中に入ることはできませんでしたが、外観だけでも十分楽しめました。



次に紹介するのはベントイン市場です。

食品や雑貨、衣料品など様々なものが売られていて見ているだけでも楽しい場所でした。日本人観光客がよく訪れるからなのか、日本語で話しかけてくる店員さんが多くいました。ここで物を買うときは注意が必要で、元の何倍もの値段で売りつけてくるので交渉力が大事になってきます。



最後に紹介するのはドンコイ通りです。

ここは雑貨屋やレストランなど多くの店が軒を連ねています。VFS 参加メンバーはここで土産を買っていた人も多く、散策しているとあっという間に時間が過ぎてしまいます。自由行動の時間があればとりあえずドンコイ通りに行こうという流れになるくらい何回行っても楽しめます。



8. ベトナム語の授業（1）ベトナム学生との自習

教育学部 学校教員養成課程 理科教育コース 3年 伊藤悠斗

フィールド調査を一緒に行う師範大学の学生からベトナム語を教えてくださいました。ベトナム語は日本語と比べると、文法規則や文字が大きく異なります。語順に関しては、日本語がSVO言語であるのに対して、ベトナム語はSVO言語です。また、名詞を修飾する形容詞は日本語では名詞の前に置かれますが、ベトナム語では名詞の後ろに置かれます。また、ベトナム語は日本語と異なり6種類の声調があるため、日本語にはない発音や区別しない発音があり、発音が非常に難しかったです。師範代の学生に教えてもらったことですが、ベトナム語と日本語は異なる点が多いのですが、ベトナムは日本と同様に中国漢字文化圏に属していたため、類似点が幾つかあります。たとえば、「注意」ベトナム語では **chú ý**（チューイー）、「専門」は **chuyên môn**（チュエンモン）と発音します。

師範代の学生がマンツーマンで熱心に指導して下さったおかげで、基本的な挨拶や自己紹介は出来るようになりました。メンバーによっては、基本的な挨拶や自己紹介だけでなく、日常会話や買い物で使えるベトナム語などを学んでいました。最後に私が学んだベトナム語を紹介したいと思います。（文責：伊藤）

こんにちは	xin chào
ありがとう	cảm ơn
またね	Gặp sau nha
お休みなさい	ngủ ngon nhé
安くしてもらえますか？	Có giảm bớt được không ạ?
嬉しい	rất vui または Vui quá
とても美味しい	ngon quá
フォーを食べました	Tôi đã ăn phở
どういたしまして	không có chi



9. ベトナム語の授業（2）Than 先生のベトナム語の講義

人文学部 文化学科 2年 森田真衣

最初の師範大学の学生とのベトナム語の自習に続き、私たちは Than 先生のベトナム語の講義を受けました。この講義では、趣味を表すベトナム語を中心に学びました。

<趣味を表すベトナム語>

- Sơ thích 趣味
- Ve tranh 絵を描くこと
- Xem ti-vi テレビを観ること
- Đọc sách 読書
- Nghe nhạc 音楽を聴くこと
- Nấu ăn 料理を作ること
- Ca hát 歌を歌うこと
- Karatê 空手（をすること）
- Bơi 水泳
- Bóng đá サッカー

主に以上のような単語を元にベトナム語特有の発音の練習などをしました。全体で練習した後は一人一人の発音を Than 先生がチェックしてくださいました。また、分かりにくかったり難しかったりしたときは、近くの師範大学の学生が何度も教えてくれました。

ベトナム語には日本語にはない母音の発音が多く、難しかったですが上手く発音できた時は嬉しかったです。ほんの基礎を学ばせていただいただけではありますが、楽しく分かりやすい授業でした。

10. ベトナム文化の授業

生物資源学部 生物生命科学科 1年 福井紗帆

ベトナムホーチミン市の人口は約 1300 万人であり、北部のハノイより人口は少ないが、ベトナムの主要都市のひとつである。

日本とベトナムの文化の特徴を比較すると、日本は自ら文化を吸収する姿勢をとり、能動的である。一方ベトナムは中国に反抗的な姿勢をとり、強いて文化が引き込まれた、というような状況がある点で受容的であるといえる。

ベトナム文化の要素とその歴史

- 「三重（さんじゅう）の文化」

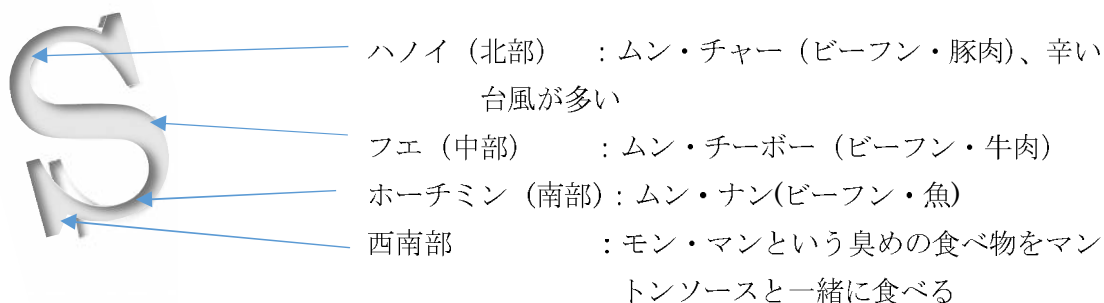
ベトナムにはヨーロッパ、中国、ベトナムの文化が融合した「三重（さんじゅう）の文化」が存在する。

- 主にフランス文化。
- 料理（バインミーなど）
- 男女平等
- ローマ字

- 水稲栽培
- 仏教、道教

- ベトナムの地域別の特徴

【ベトナム概略地図】 ▼



- ベトナムの多民族文化

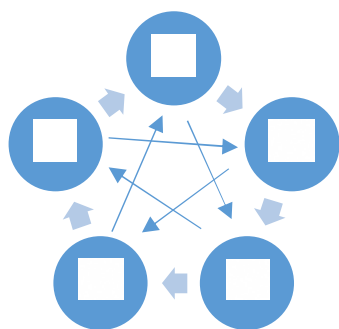
ベトナムには中国から移住してきた54の民族が存在する。少数民族であるユーカナカには強い力の象徴である、大きな屋根を持つ家を居住区とし、日本の高床式倉庫に似た建物も建設する。

- 陰陽五行説の採用

ベトナムでは、物事を「陰」の性質をもつもの、「陽」の性質をもつものに分け、それらの調和を図る陰陽説がよく採用される。

陰陽採用例：アオザイ、バインミー（後に詳しく説明）など

五行説…地球上の物質は、木、火、土、金、水の五つの要素に分けられ、お互いに産生し合い、お互いに制御をし合う（相生、相克）。



五行	五臓	五腑	性質
木	肝	胆	温めながら伸ばさせる 火を生じ土を制御する
火	心	小腸	熱を与える 土を生じ金を制御する
土	脾	胃	万物を生み出す 金を生じ水を制御する
金	肺	大腸	冷ます、沈静させる 水を生じ木を制御する
水	腎	膀胱	冷えと潤いを与える 木を生じ火を制御する

(参考文献：「入門漢方医学」，社団法人 日本東洋医学会, 2002, p51,52)

陰陽、五行を持ち合わせるものがよいとされている。

例：バインミー 陰... 酸味のあるつけもの

陽... 甘いパン

五行の性質も持ち合わせる（どの材料がどの五行にあたるのかはリサーチ不足です、ごめんなさい）

- 陰陽配合の重視

陰陽配合：反する両部の統一、体のバランス、環境と人間のバランスといった、真逆のものを組み合わせて調和させること

ベトナムでは陰から陽への移行期が最もエネルギーが高い状態であるとされ、それを食べ物の栄養価にも応用して考えられる。陰から陽への移行期は生物でいう成長途中に対応し、その時期が最もエネルギーが高い、つまり栄養価が高いと考えられ、風邪をひいたときなど力をつけたいときはそのような食べ物を食べる。

例：ホッピーロ（鳥の子）、豆もやし（>もやし（栄養価））、鳩の子のおかゆ、コウン（苗になる前の緑色の米の実をゆでてつぶしたもの）

おまけ

ホームステイで学んだ文化「生老病死と数字」

生、老、病、死には対応する数字がある。

生：1、5、9、13...

老：2、6、10、14...

病：3、7、11、15...

死：4、8、12、16...

例えば... 階段の数が17段⇒生

ちなみに名前の画数をしらべてみると

福井彩帆 福（13⇒生）井（4⇒死）彩（11⇒病）帆（6⇒老）

偶然かもしれないけど、生、老、病、死が全部そろってうれしかったです！

感想

東洋医学が好きなので、陰陽五行説の考え方が共通しているから、かなり興味深かったです。ただ、この文化の授業のはじめに、ベトナム文化の特徴として中国に反抗的だという性質を聞いていたので、中国が源流の陰陽五行説の考え方をこんなにも重視していることが不思議に感じました。また、私は漢方に興味があったため、ベトナムの漢方通りであ

る、ハイランオンタウン通りに行きたいとベトナム人学生さんたちに申し出ましたが、中国に反抗的だという話を聞いて、(もしかしたら中国源流の漢方はあまりいい印象がないのかなあ) と不安に思いました。

陰から陽への移行期が最もエネルギーが高い状態であるということから、生物の成長途中が最も栄養価が高い、というのは科学的にも正しいのか気になりました。

IV. 最終発表

各グループによる最終発表の資料です。

1. 教育グループ・・・伊藤悠斗、牧知香

2. 歴史・宗教・伝統文化・生活グループ

グループ（1）眞鍋岳男、吉田奈央

グループ（2）繁田怜奈、宮崎茜

3. 都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ

グループ（1）西川侑見、栗林美波

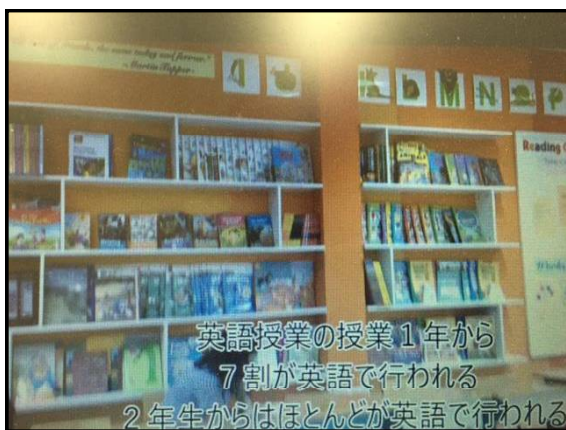
グループ（2）森田真衣、福井彩帆

(ベトナム学生については巻末資料参照)

最終発表1

教育グループ

日本とベトナムの英語教育





iPadを使った授業風景



重視している技能 Speaking
ディスカッションやペアワークが行われている



知識だけでな活動体験を重視!



買い物の授業
発展クラスはネイティブの人が担当
教科書は使わず、アクティブに活動!



授業で大切にしていること
目的を持つこと
実際にやってみること
楽しくやること



今後の課題
日本 担任の先生が教えるため英語力が
養われない
ベトナム 地方の学校ではリーディングとライティング
が中心で会話力が養われない

最終発表2

歴史・宗教・伝統文化・生活グループ(1)

発表のゲーム

1. 仏教はどこからベトナムに伝来しましたか。

a. 中国 b. タイ

c. インド d. カンボジア

0

2. ベトナムでは、主にいつお寺に行きますか。

a. 旧暦の14日、15日 b. 旧暦の月末

c. 旧暦の1日 d. 全て正しい

0

3. 菜食をする時は、何を食べませんか？

a. 肉、魚 b. 卵

c. a, b 正しい d. 果物

0

4. 菜食の一番大切な意味は何でしょうか。

a. 長生きのため b. 自然に近づくため

c. 殺生(せつしょう)を避けて、善行をするため d. 幸せを願うため

0

5. 仏教で禁止されている5つのことは何ですか？

a. 偽ること、淫欲、盗むこと、お酒を飲むこと、殺生

b. 結婚、盗むこと、殺生、偽ること、淫欲

c. 盗むこと、お酒を飲むこと、殺生、無精、淫欲



賽銭箱



6. ベトナムで、賽銭箱の目的は何でしょうか。

a. お坊さんに給料を払うため

b. 飾るため

c. 貧しい人を助けて、お寺を修復するため

0

7. 日本のお坊さんは、ベトナムのお坊さんと何が違いますか。★

日本のお坊さんは結婚すること、肉と魚を食べることができます。ベトナムのお坊さんはそんなことをすることができません。



最終発表

越市

表目次

- ▶ 省
- ▶ 市
- ▶ 本
- ▶ 大
- ▶ 人
- ▶ 大
- ▶ 大

調査目的

- ▶ 歴史、文化、民俗、宗教
- ▶ ベトナム戦争、独立戦争
- ▶ 生活
- ▶ 日本
- ▶ 比較

ベトナム市博物館について

- ▶ 概要
 - 1886
 - 1978
- ▶ 展示

本の結婚式

- ▶
- ▶
- ▶
- ▶
- ▶

ハドナハの結婚式 キン族

1. [redacted]
[redacted]
[redacted]
[redacted]



ハドナハの結婚式 キン族

2. [redacted]
[redacted] cheo
[redacted] D m ngó
[redacted] h
[redacted] N p tài
[redacted] dáu
[redacted] m
[redacted]

ハドナハの結婚式 人

1. [redacted]
[redacted]
[redacted]
[redacted]



ハドナハの結婚式 人

2. [redacted]
[redacted]
[redacted]
[redacted]
[redacted]
[redacted] Lâm Thôn
[redacted]



ハドナハの結婚式

3. [redacted]
[redacted]
[redacted]
[redacted]

ハドナハの結婚式

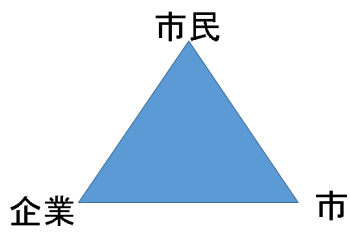
4. [redacted] 清瞭
[redacted] C 20 [redacted]

最終発表4

都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ(1)

ホーチミン市を誇れる都市へ
～日本企業と町並み～

テーマ設定について



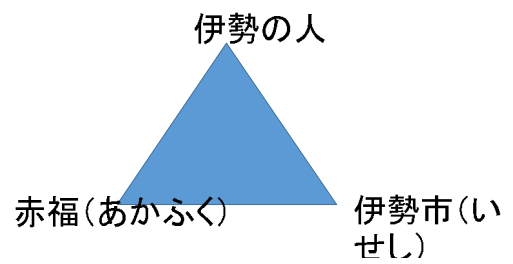
例え 三重県 伊勢市



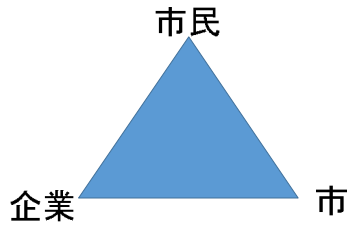
おかげ横丁



テーマ設定について



テーマ設定について



企業から市や市民への貢献

CSR活動について
 Corporate(企業の)
 Social(社会的)
 Responsibility(責任)



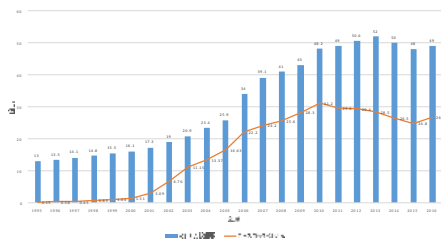
会社概要

- 1948年 大阪市でパン屋として創業開始
- 1954年 梅新製菓株式会社を設立
- 1964年 社名をエースコック株式会社に改称
- 1993年 ベトナムに合弁会社VIFON-ACECOOK.LTDを設立
- 2004年 ACECOOKVIETNAMへ社名を変更
- 2014年 会社設立60周年を迎える



現在では46か国に商品が輸出され、世界的に愛されるインスタント食品会社に！

ACECOOK-VIETNAMの販売実績・総需要の推移



ACECOOK-VIETNAMのCSR活動について

- ・台風によって洪水が起きた時にお金を提供する
- ・テト休み(旧正月)の掃省時に貧しい人の為にバスを手配
- ・ベトナムの文化を広めるために、ベトナム国立交響楽団(VNSO)に協賛している
- ・交通マナーを良くするための活動を公安と一緒に取り組む



アンケート①

日本の企業のイメージはどのようなものですか？

- ・近代的
- ・きれい
- ・いい技術
- ・良質、良い製品
- ・企業のルールをきちんと守る
- ・時間を守る
- ・効率がいい
- ・高基準である



↓
プラスのイメージを持つ人が圧倒的に多い！

アンケート②

ベトナムに対して日系企業がどのような貢献をしているか知っていますか？

知っている(20人中17名)

- ・奨学金
- ・資本提携
- ・寄付
- ・技術提供
- ・いい境遇を労働者に与えている
- ・インフラ投資
- ・近代的な設備の提供
- ・などなど・・・



ホーチミン市

観光の街＝見える、強いところ
＝“陽”



ホーチミン市

人々が暮らす街＝見えにくい
ところ＝“陰”



アンケート: それぞれの街は美しい・面白いと思いますか？

- ・20人中17人「観光の町」＝美しい
- ・美味しいもの、涼しいところが多い
- ・20人中3人 良いところと悪いところがある
- ・値段が高い
- ・道が悪い、安全でない

- ・20人中15人「人々が暮らす街」＝面白い
- ・にぎやかで、人々は親切である
- ・20人中3人 良い印象はない
- ・安全でない、道が汚い
- ・20人中2人 人や場所によって違う

どこをよくするか

ホーチミン市はもっと良くなる



つなぐための道を整備する

“陽”と“陰”をゆるやかにつなぐ



鉄道ではダメなの？

地下鉄ができれば利用しますか？

- 20人中13人が地下鉄を使いたい
 - 使ったことがないからわからない
 - 便利で、近代的
 - 一回だけかも？
- (25%)

- 地下鉄の課題
- 駅やその周辺の整備
 - 鉄道運転手の育成
 - 住民に鉄道を使うことを進める

交通をよくするには 鉄道以外にも整備すべき！！！！



ホーチミン市を良くするには市だけでは膨大なお金がかかり、時間もかかる

ホーチミン市の更なる発展の為に市だけではなく企業も積極的に関わっていくべき



最終発表5

都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ(2)



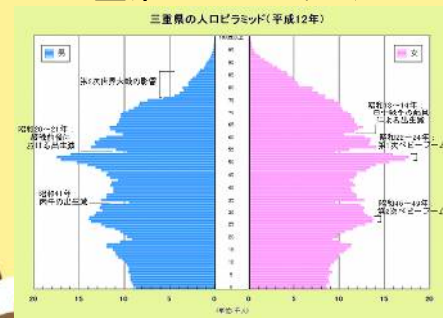
「エースコック」の商品から考える ベトナムと日本の違い



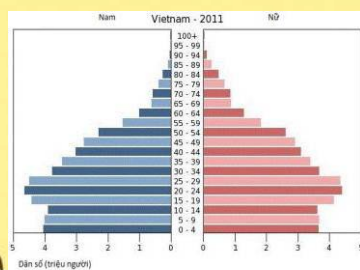
- Nguyễn Vũ Phương Uyên – 41.01.755.138
- Trương Thị Ngọc Thảo – 41.01.755.101
- Nguyễn Ngọc Hạ Vy – 41.01.755.148
 - Lương Bảo Đình – 41.01.755.021
 - Ngô Tuyết Như – 41.01.755.079
 - Đặng Hoàng Vi – 41.01.755.145
 - Trịnh Hoàng Anh – 41.01.755.008
- Đinh Nguyễn Quỳnh Dao – 41.01.755.017
 - 福井彩帆 516579
 - 森田真衣 115097



三重県の人口ピラミッド



ベトナムの人口ピラミッド



ベトナムで売るには？

- 味の工夫
- コスト削減
- 流通



味の工夫



日本

ベトナム

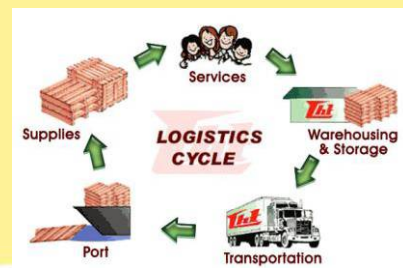
解決方法



コスト削減



流通システム



日越融合 現地化



画像: <http://zatugaku1128.com/wp-content/uploads/2016/10/>

ご静聴ありがとうございました



Xin chân thành cảm ơn thầy cô và các bạn đã chú ý lắng nghe.

6. (参考) 発表メモ

歴史・宗教・伝統文化・生活グループ (1) 発表メモ

1. 発表の流れ

- フィールド調査目的 (ベトナム学生発表)
- ベトナム戦争以外の歴史について
- ホーチミン市博物館について (ベトナム学生発表)
- 概要、展示内容について

2. 日本、ベトナムの結婚式について

- 伝統的な結婚式と現代の結婚式の対比
- 仏教徒、少数民族の結婚式

3. まとめ

4. 日本の結婚式 補足事項

- 結婚の変遷→平安時代や鎌倉時代などの日本の時代名を言った時少し補足を加える
- 現代の結婚式→服装などは写真を指して説明する

5. ベトナムの結婚式(キン族) 補足事項

- 結婚式の供物→果物 (キンマ)、ビンロウ、焼き豚、ナンバンカラスウリのこわ飯
- ケーキ、酒、お茶、花嫁のアクセサリー、持参金
- 占い師が結婚式をするのに縁起のいい日を決める
- 結婚式の行われる場所→昔：家

現代：教会 (キリスト教徒)、レストラン、家 (仏教徒)

6. ベトナムの結婚式 (クメール人) 補足事項

- クメール人→ベトナム南部の少数民族
- ビンロウの花→一つ父親に感謝、二つ母に感謝、三つ兄弟に感謝
- 祖先崇拝の儀式

都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ（2）発表メモ

現在、日本は少子高齢化が進み、国内の市場は縮小していきます。一方、ベトナムは若者が多いので市場の拡大が見込まれています。

こちらが三重県の人口ピラミッドです。

こちらがベトナムの人口ピラミッドです。

ベトナムの人口ピラミッド

- ・ 味の工夫
- ・ コスト削減
- ・ 流通

味の工夫

- ・ ベトナム人の好きなインスタントラーメンの味

⇕違う

- ・ 日本人の好きなインスタントラーメンの味

解決方法

- ・ ベトナム人職員が味を調整することで、
ベトナム人が好む味を目指す。

日本人が好む味

↓

ベトナム人が好む味

コスト削減

- ・ 原材料の輸入 ←コストがかかる！
その結果価格が高くなり、売れない。
- ・ ベトナム現地での原材料生産技術を向上させる
- ・ コストが下がり、価格を下げることに繋がる。

流通システム

- ・ 日本のコンビニでは、カップラーメンを買うと、フォークをつけ
- ・ ベトナムでは、フォークをつけてもらえない。

↓

カップの中にフォークを入れて出荷する。

そのため、スープはパックに入れている。

発表は以上です。

ご清聴ありがとうございました。

Bài thuyết trình đến đây là hết. Xin chân thành cảm ơn thầy cô và các bạn đã chú ý lắng nghe.



V. 感想

メンバー一人一人によるベトナムフィールドスタディの感想です。

ベトナムフィールドワークスタディ 報告書

教育学部 学校教員養成課程 社会科教育コース 2年 牧知佳

私がこのベトナムフィールドワークスタディに参加しようと考えたきっかけは、私の友人が昨年のベトナムフィールドワークスタディに参加しており、その経験談を聞いたこと、写真を見たりしているなかで、大学生活のうちにぜひ参加してみたいと感じていたことである。私は1年次に天津師範大学短期語学研修&文化交流（1年生の春3月）に参加しており、日本を飛び出して海外で生活し、現地の学生と交流したり各地へ訪れたりすることで、その国の文化を体験し、触れることで自分の見地を広げるという経験をした。このような経験はこの大学生のうちが最も可能であり、大学生活のうちにたくさんの経験を積みたいと考え、このベトナムフィールドワークスタディに参加した。また、ベトナムという地は日本と同じアジアの国であるが、ホーチミン市は亜熱帯性気候であり、日本と違う文化であることは予測される。この文化の違いを学びたいと考え、参加した。

出発までの間は、ベトナムについての事前理解をすすめた。事前学習を通じて、語学面から、文化・人柄にいたるまで、三重大学の留学生から教えてもらった。また、ガイドブックなどを購入し、事前に行く場所やベトナム全体についての理解を深めた。（この方法は1年次の天津師範大学短期語学研修&文化交流の経験で得たものである。）プログラムのなかでフィールドワークを行うにあたって、ベトナムの教育制度についても事前に学習し、ベトナムにどのような学校があるか調べた。それに伴い、日本の教育制度についても改めて学習し、見地を深めた。

現地での活動では、10日間という短い時間しかないので現地でしか得られないものをすべて得ることを重視して活動した。ベトナムの学生や先生方から教えてもらったことを重視し、たくさんの所へ実際に行って見て感じて、さまざまなものを食べて、文化に触れて、たくさんの人から聞いて考えることを重視した。また、学生との交流も深めるよう努めた。ホーチミン師範大学の学生もフィールドワークスタディで関わることになったチームのメンバーも、一緒に作業をするなかで、フィールドワークの内容以外にも、たくさんの場所に一緒に行ったり、一緒にご飯を食べたりすることで交流を深めた。また、他のホーチミン師範大学の学生とも文化交流や日々の活動において、たくさんの交流を持つことができた。また、ホームステイでもお世話になったホーチミン師範大学の学生と家族とも1泊だけであったが、さまざまな経験をさせていただき、たくさんの思い出やかけがえのない経験となった。また、ベトナムの学生はもちろん、フィールドワークスタディを共に活動する三重大学のメンバーとも親交を深めることができた。

グループ活動においては、特にフィールドワークの際の交流でさまざまなことを学んだ。私たちが事前学習でやりたいと考えたことが実際にベトナムに行くと、ベトナムの

学生に説明し、理解を得ることがかなり難しかった。言語面もあるが、私たちの準備の段階でも、日本にいる間で完全に準備ができたわけではない。そのため、ベトナムの学生に聞き取りをしたり、準備の段階で協力したりしてもらうときに、私たちの意図がうまく伝わらず、難しい場面が多くあった。このフィールドワークにはベトナムの学生の協力は欠かせないので、一緒にやるうえで難しいことはたくさんあったが、学生同士でも分からない所は私たちに聞いてくれたり、ベトナム人同士や日本人同士で教え合うことを通じて、共通の理解をすることを心がけて乗り切った。

このベトナムフィールドワークスタディを振り返って、日本と気候など違う土地柄にあるベトナムに行き、日本とはまた違う人柄も文化も学び、自分のなかでの考えがさらに豊かになった。また、フィールドワークスタディの班のメンバーともその後、交流を続けており、ベトナムの様子や日本の四季の様子、また、お互いの近況などを報告しあっており、研修が終わっても交流を続けることができる友達を得ることができた。ベトナムの学生だけでなく、今回のベトナムフィールドワークスタディで出会った三重大大学の仲間もかけがえないものになった。今回私は誰も知り合いがいないなか参加したのだが（新しい交流関係を築くのも私が今回のベトナムフィールドワークスタディに参加した理由の1つなので）、それでも楽しく協力しあってすすめることができ、とてもよかった。

今回、2年連続の海外研修をしてみて、さまざまな体験をすることができ、参加をして本当によかったと感じている。大学生のうちにもこれからもさまざまな経験を積みたい、とさらに感じるようになった。



ベトナムフィールドスタディで得た多くの経験

人文学部 法律経済学科 2年 栗林美波

私がベトナムフィールドスタディに参加した動機は明確なものがあったわけではなく、大学在学中にしかできない経験を得たいというものでした。旅行で行くのはまた違った経験を得たいという気持ちが強かったです。当初ベトナムに関しての知識はほぼなかった為、参加が決まってから出発までにあった数回の勉強会で徐々にイメージをつかんでいきました。ただ、ベトナム語に関しては出発当日になっても簡単な自己紹介程度しか喋ることができず、少し不安を感じる部分を残しつつ出発しました。

いざ現地について空港を出て街並みを見渡してみると、ビルが立ち並び、道路は車やバイクで混雑しており、私が想像していた以上の都市で驚きました。また、街の真ん中には日本の企業による建設中の地下鉄があり、街は活気に溢れ、まさに今、急速な経済発展を遂げている国だと感じました。ただ、横断歩道がなかったり、少し通りを外れると歩道が崩れていたり瓦礫があったりして、インフラ整備はまだ十分だとはいえませんでした。しかし、先生が少し前のベトナムとは景色が大きく変わっていると仰っていたので、改善されるのもそう遠くはないだろうと思いました。

滞在中は様々な体験をすることができました。観光はもちろん、ホームステイやホーチミン市師範大学の学生と一緒にベトナム文化やベトナム語の授業を受け、彼らと一緒にフィールドワークも行いました。観光面では中央郵便局や統一会堂、クチトンネルや戦争証跡博物館などを見て回りました。特にベトナム戦争に関する場所は戦争の悲惨さを改めて考えるきっかけになり、貴重な経験になりました。また、ホームステイは1日だけでしたが、一緒に外出したり、多くの料理をふるまってくれたり、楽しい会話もたくさんできて、温かく迎え入れてくれた家族に今でも感謝しています。そして現地学生との交流は今回のプログラムの中のメインだったといっても過言ではないほど、彼らとは多くの時間を共に過ごしました。一緒に授業を受けたり、ご飯を食べに行ったり、買い物に行ったり、フィールドワークをしたりと楽しい時間を過ごすことができました。言語の授業では、ベトナム語は発音が難しいため、隣の師範大学の学生が熱心に教えてくれました。また、授業の合間には彼らの出身地について紹介してもらったり、おすすめの料理を食べてもらい実際に一緒に食べに行ったりしました。出発前はベトナム語をほとんど喋れないことに少し不安を感じていましたが、師範大学の学生は日本語をある程度喋ることが出来た為、会話に困ることはほとんどありませんでした。彼らとは多くの交流をしましたが、中でも印象深いのはフィールドワークです。私のグループのテーマはどういうものなのか、どのように調査を進めていくのか、最終日の発表はどのように進めていくのかなど、相手に理解してもらえるように話すのに苦労しました。私は相手の学生に対してなるべく難しい日本語を使わずに、簡潔に言いたいことをまとめるように心がけていました。大変でしたが発表が

終わった時は苦勞よりも達成感の方が強く、今ではいい思い出です。師範大学の学生との別れは悲しく、思わず涙を流してしまいましたが、日本に絶対行くからと言ってくれて、再会の約束をすることができました。

帰国して振り返ってみると、参加しなければ得ることができなかった本当に多くの貴重な経験をさせてもらったと感じます。中身の濃い10日間で、たくさんの思い出と友達を作ることができ、有意義な時間を過ごすことが出来ました。そして師範大学の学生が日本に対してとても興味を持ってきている姿を見て、改めて日本に住んでいることに誇りを持つことができました。日本の文化や技術に関して、日本にいるとあまり考えることはありませんが、外から日本を見ると素晴らしいものだと思います。ベトナムフィールドスタディに参加したことで、広い視野で物事を捉えるきっかけを得ることができ、またどんどん進んでいくグローバル化に対しての様々な問題意識も持つことができました。このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝しています。そして、スムーズに予定を進めていけるように動いてくれた先生方、また学部や学年は様々だったけれど支え合ったメンバーに出会えたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

<修了証書をいただきました>



<公園でアンケート調査をしました>



ベトナムフィールドスタディに参加して

医学部 看護学科 4年 眞鍋岳男

2017年2月26日～3月7日まで行われた、ベトナムフィールドスタディ（以下VFS）に参加した。以下、VFSに関する活動報告や感想などを記す。

ベトナムに興味をもったきっかけは、去年（2016年）4月から、EPAの一つとして来日していたベトナム人看護師候補生と一緒に看護師国家試験の勉強を始めたことであった。ベトナム人看護師候補生の二人は既にベトナムで看護師養成学校を卒業しており、数年間の実務経験があった。彼らと一緒に勉強をしつつ、ベトナムの看護や医療について、さらにベトナムの文化について話を聞くうちに、ベトナムに興味が沸いてきた。これまでは遠く、縁のない国であったベトナムにいつの日か訪れたい、という思いが強くなってきたが、そのきっかけは掴めずにいた。そんなある日、ユニパでVFSの告知があり、折角のチャンスなので参加することを決めた。

参加することを決めた後、まずはベトナムの歴史、地理をある程度調べた。ベトナムの多少興味は持っていたものの、ベトナムがどんな国なのか、どんな歴史をたどっていたのかについてはほとんど知らず、当時のベトナムのイメージといえばベトナム戦争とフォー、アオザイくらいであった。VFSはただベトナムを観光するだけのものではなく、なにかテーマを持ってそれに添って調査を行い、まとめて発表を行うのも目的の一つである。このままでは何を見るべきか、どんな事を調べるべきかも分からない。そのため、まずはベトナムについて知る必要があると考え、図書館で本を借りたり、本屋でベトナムに関する本を購入したり、またインターネットで情報を収集した。調べていくうちに、ベトナムも日本と同じように中国の影響を強く受けていること、しかし、日本とも中国とも大きく異なる独自の文化を持っているようであること、さらにとても複雑な歴史をたどっていることなどがわかってきた。個人的にベトナムについて調べるだけでなく、FSの勉強会にも参加し、学生たちで意見を交換したり、知識を共有したりして何処へ行くのか、何をしたいのかを話し合っていた。そうした自己学習や話し合いの結果、いくつかのグループに別れ、それぞれのテーマを持って訪問先を決めていった。

また、旅行そのものの準備として、2月末といえども日本の夏とほぼ同じ気温であるという、日本と大きく異なる気候を念頭に入れ、夏物の服を準備し、体調管理には気をつけた。さらに海外に行くので海外旅行用の保険に加入したり、外務省の旅レジに登録したり、更に現地の治安状況についても事前に調べていった。当時は国家試験が近く、準備は万全と言えないところもあったが、出発までにはなんとか一通りの準備を終えることができた。

中部国際空港から飛行機に乗り6時間ほどでベトナムに到着。時差は2時間なので、現地時間の14時半頃に空港に降り立った。気温は25～30℃くらいで日本の初夏から夏くらいの気温、しかし乾季なので湿度は低く、気温が高い割にはそれほど熱く感じなかつ

た。それでも急に暑くなったので熱中症には気を付け、水分補給を頻繁に行った。また、ホーチミン市はバイクが非常に多く、日本のような交通マナーはないため事故にあわないように中止して道路を横断するようにした。治安は比較的良いものの、まれにスリやひったくりがあると聞いていたので荷物やお金の管理には充分気をつけた。さらに日本と比べて食中毒が多いので生ものを口にしないこと、生水や氷も避けるように気をつけた。

ホーチミン市については、ベトナムの文化や歴史を学べる場所を訪れたり、ホーチミン師範大学で講義を受けたりした。町並みは非常に活気が有り、道路に面するところはほぼ全て商店があるといっても過言ではないくらいで、多くの人で賑わっていた。街並みを眺めると、フランスの影響がかなり強く残っていることが実感できる。フランスの植民地時代に広まったキリスト教が今も広く信仰され、教会が街のあちこちにある。



また、西洋風の建築物も数多く残っている。それと同じように、中国の影響を強く受けたお寺も街のいたるところで見受けられ、アジアとヨーロッパが合体したような、不思議な街並みが印象に残った。

また、戦争証跡博物館、統一会堂、クチトンネルではベトナム戦争の際、実際に使用された戦車や戦闘機、小銃などが多くの写真とともに展示されていた。悲惨な戦争の様子を伝えつつも、ベトナム人の国に対する思いが伝わってきて日本と国防に関する考え方の違いを気づくことができた。

現地ではホーチミン市師範大学の学生と交流した。一緒にベトナム語やベトナム文化に関する講義を受けたり、フィールドワークの打ち合わせや実施、さらに発表原稿のまとめなどを行った。その他、日本の文化を紹介したり、ベトナムで流行していることを教えてもらったりなど非常に楽しい時間を過ごした。学生たちは皆日本語を専攻しており、日常会話程度なら意思疎通に困難はなかったが、ある程度複雑な話となるとなかなか理解してもらえない場面もあった。しかし、ベトナムの学生たちはみな真面目で親切であり、大きな問題はなかった。

ベトナムから帰ってきて、これまで全く知らなかったベトナムという国について、少し

は知ることができた。ベトナムと日本は地理的特徴も、言語も、文化も何もかも違う国と
考えていたが、実際に訪れてみて共通するところも数多くあり、たしかに違いはあるけれ
どそれは互いに理解し、乗り越えることができると感じた。

ベトナムフィールドスタディについて

生物資源学部 生物圏生命科学科 2年 繁田怜奈

私がこのベトナムフィールドスタディに参加したのは、大学生のうちにはしか挑戦できないことをしたいという思いがあったからです。日常の生活では体験できないような新しく、刺激的な体験をしたいと思っていましたが、実際の大学生活では、自分から行動することがあまりできず、何かきっかけがほしいと思っていた時に、このベトナムフィールドスタディの存在を知り、参加することを決めました。また、アルバイト先でベトナム人の留学生と出会い、ベトナムという国を身近に感じたことと、ベトナム人学生の勉強熱心なところに触れ自分もそのように積極的に行動したいという思いを持ったことも大きいです。

出発までの準備で気を付けたことは、ベトナムについての知識を身に着けることでした。ベトナムでの習慣で日本と異なるところや、衛生面、治安面など海外に行くとういうことはそれなりの危険が待ち受けていると思い、自分の中で出来る限りの対策をしていくことが大切であると考えました。すりの多い場所など最初に情報を仕入れてから行くことは大切だと思いました。実際、スーパーですりに合いそうになったので、最初から知識をもって置くことは大切だと実感しました。

現地での活動で重視したことは、自分の意見をはっきりと主張することでした。ベトナムの学生は自分の意見をはっきり言って、議論してくれるので、私も自分の意見をしっかり言わないと失礼だと思いグループワークの前に訪問地の情報を集めたり、考えをまとめたりしました。しっかり調べていったつもりでも、うまくいかなかったり、実際とは違ったりすることも多かったですが、ベトナム人の学生たちが、積極的に行動して協力してくれたおかげでうまくいったことも多かったです。

日本人学生やベトナムの学生とのグループ活動でうまくいったことは、ベトナム人の学生と仲良くなることが出来たところだと思います。私のグループは日本人が2人とベトナム人が7人のグループでした。圧倒的にベトナム人の学生の方が多く、相手がベトナム語で話しているときは、何が話されているのかが分からず、とても不安になりました。しかし、積極的にかけることによって、ベトナムの学生たちも少しずつ話してくれるようになりそこはうまくいったと思います。しかし、うまくいかなかったところとしては、グループのテーマがなかなか決まらずに意見が分かれてしまったことがあったことや、率先してグループをまとめるよう行動出来なかったところだと思います。もう少し、周りを見ながら行動する必要があったと思います。

このベトナムフィールドスタディに参加したことで、自分が成長したところは興味を持ったことに逃げずに挑戦することへの自信がついたことだと思います。最初このベトナムフィールドスタディに申し込むことを決めるのにとっても悩みました。それは、一人で参加することを決めたので、他のメンバーとうまくやっていけるのかということや、ベトナム

という異国の地で10日間という長い時間生活することが出来るだろうか、言語の壁がある中でベトナム人学生の交流はうまくいくだろうか、治安は大丈夫なのか、などとても不安でした。しかし、今振り返るとベトナムでの10日間は失敗の連続でうまくいかないことばかりでしたけれど、とても充実していたと思います。グループワークが上手くいかなかったり、言語が通じず、タクシーで目的地と違う場所に降ろされたりとたくさんの失敗を経験しましたが、その倍以上にベトナム人の友人が出来たり、一緒に行った日本人の学生とたくさん観光したりして、多くの良い出会いがあったことが良かったと思います。そのことから、またこのような機会があったら、逃げずに挑戦したいと思うようになりました。また、失敗することが当然だと思えるようになったので、失敗を恐れずに行動できるようになったと思います。新しいことに挑戦する自信を与えてくれた、このベトナムフィールドスタディに感謝しています。



ベトナムフィールドスタディ 全体を通じた感想

人文学部 文化学科 2年 吉田奈央

私がこのフィールドスタディに参加しようと思ったきっかけは、3つありました。

1つ目は、三重大学で、ベトナム人留学生と知り合ったことです。ベトナム人はとても優しく、親しみやすいという印象を受けました。彼らがどんな生活をし、日本とはどう違うのかを実際に見ていたいと思いました。

2つ目は、今年の夏にベトナムの隣国であるカンボジアを訪れたことです。カンボジアを訪れた際、「あと30分車で走ればベトナムに入る」というところまで行きました。日本にいと陸で繋がった隣国がないため、そのような感覚を味わうことがなく、とても新鮮でした。隣り合っていないながら、文化的に違う点はあるのか、また共通点はあるのかを知りたいと思いました。

3つ目は、以前も大学のプログラムで海外に行き、学ぶことがたくさんあったからです。観光では行かないようなところも訪れ、得るものが大きいのではないかと感じたからです。また、その時も戦争について学習し、日本との展示の仕方や戦争への考え方の違いを感じました。このベトナムでは戦争を伝えることについてどのようなアプローチをしているのか見てみたいと思ったからです。

出発するまでに、ベトナム人留学生に気候や治安について尋ねました。日焼け防止のために長袖を着用していること、観光客だけでなく現地人でもスリに気を付けていること、交通量が多く空気が悪いのでマスクをつけていることなどを教えてもらいました。また、衛生面は日本より危ないので氷や生野菜に気を付けようと思いました。

ベトナムに行くと、日本と違う点がたくさんありました。とくに気になったのは、交通です。まず、バイクがたくさん走っていて、交通の量も日本に比べて大変多かったです。そのため、道を横切る際、みんなは塊になって、渡らなければなりません。事前学習で、ベトナム人留学生が「ベトナム人は、人と人の距離が近いと感じるかもしれません」と言っていたのですが、このようにみんなが固まらなると道も渡れないため、人と人の距離が近くなっていったのではないかと感じました。

今回の訪問先の中で一番印象深かったのは、戦争証跡博物館や、クチトンネルなど戦争に関する施設です。クチトンネルは中に入ってみるととても狭く、身長が低くて小柄なベトナム人に合わせたトンネルになっていると感じました。また、トンネルの中に台所や通気孔があるなど、本当にトンネルの中だけで生活できるようになっており、大変驚きました。ホーチミン市博物館には、地上が爆弾だらけで地下にトンネルが張り巡らされた図がありましたが、それが地上の悲惨さを物語っており、人々が地下へ逃げるようになったことにも納得がきました。日本でも戦時中に防空壕が作られたりしていましたが、これほど長

いトンネルはなかったと思います。やはりベトナムでは地上戦が激しかったことが原因であると感じました。

ベトナム人学生とのグループ活動では学生さんが日本語学習者であったため、大変助かりました。私は、特に話し方に気を付けて交流していました。大学での留学生との交流の経験を生かして、ゆっくり、わかりやすい日本語を使うようにしました。ベトナムの学生さんも理解してくれたため、意思疎通で困ることはあまりありませんでした。私のグループは宗教について調査をしましたが、グループには仏教の人、キリスト教の人がいて、多数派の仏教だけでなくキリスト教についても知る点が良かったです。

帰国後、このプログラムを振り返って、とても充実したものであったと感じました。特に、日本人学生と共に学習できたこと、ベトナム人学生と交流できたことは良い経験となりました。学部や年齢の違う人と事前学習を行い、自分では気づかなかった疑問や、関心が生まれ、より多くの視点から考え、理解することができたと感じました。また、ホーチミン市師範大学の学生さんには通訳から案内、ベトナム語の指導までしてもらって、本当に感謝しています。帰国してからも SNS を通じて日本語についての質問が来たり、ベトナムのお店を紹介してくれたり、私も日本の文化を紹介したりして、海を越えたよい友達関係をつくることができたことをうれしく思っています。

また、今回ベトナムの学生さんにベトナムの文化や歴史について、教えてもらう機会がたくさんありました。彼らは多くのことを教えてくれました。私は大学で留学生と交流す機会が多く、よく日本について教えてほしいといわれます。そのため、他国の文化を知る前に、もう一度自国の文化や歴史についても振り返ってみたいと感じました。とくに、戦争については出来事、考え、表象の仕方にそれぞれの国で差異があります。中学、高校で広島や沖縄に行きましたが、海外で戦争について学んだ今、またそれらの地を訪れ、戦争について考えてみたいと思いました。

このフィールドスタディを通して、自分のどこが成長したかはまだ明確には分かりません。しかし、この経験は決して無駄なことではなかったと感じています。

ベトナムフィールドスタディ全体を通じた感想

人文学部 文化学科 2年 森田真衣

私がベトナムフィールドスタディに参加しようと思った動機は、ベトナムへのささいな興味と、何かを通じて成長したいという気持ちでした。訪問先のホーチミン師範大学から三重大学に来ている留学生の友達の、母国を訪れてみたいと思いました。また、実際の日程は10日となりましたが、7日から10日程度の予定だったことも参加を決めた理由の一つです。私は以前、台湾へ3日間の旅行をしたことがあります。初めての海外で、様々な刺激を受け楽しかったのですが、3日間ではまだまだ分からないことが多く、もう少し長い滞在をしてみたいと思っていました。一週間から10日程度というのは、予算的にも気持ち的にも、丁度良いと感じました。

次に、出発までの準備についてです。この期間、私はとても迷いました。現地の治安状況や、発生しやすい犯罪、病気についての説明を受けていく内に、ベトナムへ行くのが怖くなっていったのです。しかしその反面、ベトナムの文化や言葉を事前勉強するうちに、実際に見てみたい、行ってみたいという気持ちも強くなっていきました。そこで、犯罪にあたり体調を崩したりするリスクを回避するために、先生方のお話を元に、私はどうすればいいのかさらに調べ、備えをしていきました。除菌シートやトイレットペーパー、普段飲んでいる薬、携帯食などを持って行き、貴重品の取り扱いなどに気を付けました。

ベトナムでは、ホーチミン師範大学でベトナム語やベトナムの文化についての授業を受け、ホーチミン市を中心に主要な施設を見学し、最終発表に向けてグループ活動をしました。また、一日ではありますがホームステイもさせていただきました。このホームステイ先の家庭の方々とは当日まで連絡を取っていなかったのが不安は大きかったのですが、今ではホームステイに行っても良かったと思っています。受け入れてくださった家族はとても優しい方で、その家庭の学生とその日本語学科の友達と、色々な話をしたりトランプをしたり、楽しい時間を過ごすことができました。日本語学科の学生たちとは日本語で会話することができましたが、家族の方々とは日本語で話すことはできません。簡単な英語と、覚えたてのベトナム語でコミュニケーションをとったのですが、気持ちを伝えられた時はとても嬉しかったです。受け入れてくださった家族にとっても感謝しています。

次に、グループ活動についてです。ベトナムに着きホーチミン師範大学の学生たちに初めて会った時は、想像以上に戸惑いました。私たちと同様に、彼女たちも少し緊張していたのだと思います。グループ活動についてのお互いの認識の違いもあり、初日は思ったようにコミュニケーションがとれませんでした。しかし、毎日のように顔を合わせ話をするうちに打ち解けていき、お互いの考えを話し合うことができるようになりました。なかなか言いたいことが伝えられないこともありましたが、それは言葉の壁であって、考え方や人間性の違いではありませんでした。お互いに伝わりにくいことはあっても、伝えようと

一生懸命話すことで考えを理解し合うことができました。グループ活動の時間以外にも、お昼ごはんを一緒に食べたり他愛無い話をしたりといった掛け替えのない時間に、私たちは友情を育むことができたと思います。

帰国後にベトナムフィールドスタディを振り返ると、この経験を通じて私は以前にも増して他者と理解し合おうとする心を得ることができたと思います。もっとこうすれば良かったと反省する所もありましたが、反省点も含めて得るものが多かったです。

ベトナムフィールドスタディ感想

生物資源学部 生物生命科学科 1年 福井紗帆

参加動機：自信をつける、余裕がある人になる

私は海外に行くことに対して、ものすごく構える気持ちがあったため、海外に行くことに対して自信をつけたいと思いました。

それがベトナムであった理由については、もともとなんとなく東南アジアに行きたいと思っていました。いまそのきっかけを分析してみると、生物が好きであり、熱帯地域の珍しい生物に魅力を感じていたからだと思います。

今回のベトナムフィールドスタディは学校のプログラムであったことも初めての海外として参加しやすかったです。



気をつけたこと：荷物を少なく

なるべく荷物を少なくするように気をつけました。もちろん忘れ物はしてはいけませんが、万一忘れ物があってもいいや〜ぐらいの気持ちで軽く構えるようにしました。今回の研修は、どんなときでもどこでも誰とでもやっていける！みたいな生きる力？をつけることを目標のひとつとしていたため、あえて気楽にしようと試みました。

最低限の状態やまずい状況を経験して、それがなんとかなった事実があれば、どんな状況でも楽しめて、落ち着いた状態でいられると思うからです。先輩で、どんな状況でも気持ちに余裕をもって、他の人を気遣えて、周囲に注意を払えるような方がいます。そんな人に私は憧れています。そのため、上記のようなことに気をつけました。

一方で、パスポートなどの大切なものは無くしたりとられたりしないように、袋に入れてチェーンをつけて持ち運びを工夫しました。

ベトナムフィールドスタディを振り返って一言：言葉があってよかった！

私は海外の人と話すとき、日本人と平等に接しているとはいえない対応をしていました。今回の研修のように、相手が日本語学科に所属していて、日本語を勉強しているとしても、できるだけ簡単な言葉で簡単なことを伝えようと思いました。自分が考えたこととか、複雑なことを伝えられないし、伝わらないと決めつけてしまっていたためです。フィールドスタディにおいてのテーマの議論についても、複雑なことは伝わらない、と、失礼ながらもくびっていたために、表面上のありふれたような議論をしていたなど反省します。

あちらは心を開いて踏み込んできてくれているのに私はそれを、海外の人とスムーズに話す配慮と言ってしまうえばそこまでですが、その分だけ会話において労力は削っているといえるし、踏み込もうとしないとも捉えられます。そこにも表れるように上記したよ

うな、海外に対して構える気持ちというか、壁を感じていた。

円滑さや伝えることはもちろん重要ですが、だからといって簡単な言葉で会話することは、もちろん気楽で、伝わらなくて辛い思いをしなくて済むけど、表面上の関わりを打破できないと反省しました。

でも、ベトナム人学生と会話していく中で、そんなに簡単な表現をしようとしなくても伝わるようになりました。ベトナム人学生さんは日本語を本当によく勉強してらして、こちらが申し訳なくなるほどでした。そうやって伝わることに安心感を持つと同時に、言葉の威力を感じました。

例えば、フィールドスタディーの打ち合わせの日時と待ち合わせ場所を伝えて、その約束の日、みんながちゃんと集まってくれるかどうか、きちんと正しく伝わっているかどうかものすごく不安でしたが、当日は問題なくみんな集まって、とても安心しました。同時に伝わったんだ、共有できたんだ！とちょっと感動しました。言葉でもって意思疎通ができるということがとてもうれしく感じました。言葉があることに感謝しました。伝わるってとても気持ちがいいです。

タオさん、かわいく髪を結ってくれてありがとう。

ニューさん、腹痛の中、エースコックの工場見学をがんばってくれてありがとう。かわいくて目の保養でした。

ディンさん、一緒にごはん食べてくれてありがとう。

ヴィ(Vi)さん、チーズのおいしさを教えてくれてありがとう。

アインさん、いつも笑顔で接してくれてありがとう。雲のリュックかわいかったよ。

ヤオさん、プレゼントのキーホルダー、すぐにつけてくれてありがとう。

ヴィ(Vy)さん、いつも優しくしてくれてありがとう。

ウィンさん、プリンを本当に作って持ってきてくれてありがとう。シールもうれしかった。

ウィエンちゃん、ホームステイとても楽しかった。喉かれるまでがんばってくれてありがとう。また一緒に歌おうね。

他にもいっぱい友達や先生方にお世話になりました。本当にいい人ばかりで感動しました。一緒に参加させてもらった三重大の先輩方もとても優しくて同じ研修の一員として接して頂けてとても楽しかったしうれしかったです。初めの準備から最後までお世話をして頂いた奥田先生、たくさんのサポートもして頂いた栗田先生、その他関わって頂いた方々にご迷惑たくさんおかけしました。

そしてとても感謝しています。たくさんの方々のおかげで楽しくて感動の多い研修になりました。少し自分の理想に近づけたと思っています。この経験を自信に繋げたいです。

本当に感謝してもしきれません。ありがとうございます。



ベトナムフィールドスタディ全体を通しての感想

人文学部 文化学科 2年 宮崎茜

現在高度成長期にあるベトナム。日本からの観光客も増加しつつあるが、私はこのベトナムと言う国について何も知らなかったと言っても過言ではない程、ベトナムについての予備知識が無かった。そんな私がなぜ、このベトナムフィールドスタディに参加を決めたのかを最初に述べておく。

まず私はこの三重大学の人文学部文化学科に属しており、専攻は日本史である。ここからもベトナムに行く理由が見当たらないように思える。しかしフィールドスタディに参加を決める前にベトナムについて少し調べてみると、日本と同じく中国の影響を受け、仏教信仰が盛んであり、米が主食であるなど様々な共通点を見つけることが出来た。親日的で日本とも交流があるとのことでもあったので、同じアジアの国であるベトナムを知ることにより日本を対外的に見ることが出来、尚且つ影響を受けた先が元を辿れば同じ中国であることから内面的、思想的にも日本をより深く見られるのではないかと考えた。これが参加を決めた際に第一に漠然と思いついたことである。また日本史専攻と言えど、日本に限らず「歴史」、そのものが辿ってきた道筋というのに興味があったので、世界史の教科書に大きく取り上げられているベトナム戦争は勿論、それ以外の国史といえるベトナムの歴史を知りたいと考えた。それに伴い、宗教的、環境的慣習など現地に行かなければ分からない文化に触れてみたくなった。そしてフィールドスタディの参加動機に「その国の食を知ることによってその国の文化がより見えてくる…」と大層なことを書いてしまったが、食べるのが好きでただ単にベトナム料理を食べてみたかったのである。少し私情が混ざったが、これらがこのベトナムフィールドスタディに参加することを決めた動機である。

フィールドスタディに参加することを決めるとベトナムへ出発する前までに準備をしなければならない。次にその準備段階について私が気を付けたことを書き並べていく。ベトナムは日本よりも南にあり、赤道に近くなるため一年を通して平均気温が25度と熱帯、亜熱帯と呼ばれる気候である。11月から4月あたりまでが乾季で雨が少なく、気温も比較的過ごしやすいらしいのだが、暦の上で日本は冬。半袖で年中過ごすことのできるベトナムとはあまりにも寒暖差が激しいものだった。そのため服装面では半袖を用意し、赤道に近くなるという事は紫外線も強くなるので薄手の長袖の上着、強い日差し対策に帽子を用意した。紫外線対策には日焼け止めも持って行った。日本とは違う、環境が変わると言う事で以前から服用している胃腸薬や最低限のアメニティなど普段から使い慣れているものを準備した。そして10日間と日数があるので荷物をできるだけ軽量化するため洗濯石鹸とハンガー等も用意した。海外に行く際ベトナムに限らないことであるが、その国の情勢、文化、慣習を調べておくことも重要である。

次は実際の現地での活動について述べていく。現地での活動で私が最も重視したことは

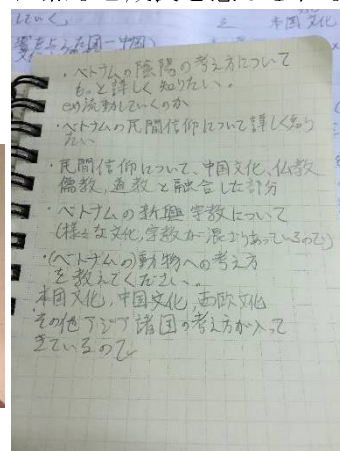
先に述べたように日本と異なる環境であるので、適宜休息を取り、水分補給をまめにする事、また文化、言語の授業は勿論行く先々で頻繁に、興味があることについて、メモを取ることである。海外に行く経験というのは貴重であり、体験したことの無い出会いがある。それら全てを学びとして書き留めておくことは備忘録になり、学習を振り返る上でも重要なことである。その学びを行う上で体調管理は必須であるので、無理をしない、活動に余裕を持たせて休息を適度に入れることも大切なことである。日本と異なる環境であるが故にその環境に合わせた行動、服装が大事だと再三述べてきたが、それは気候のみならず文化、慣習の面でも言えることである。ベトナムに入学した時点で私達は外国人であり、郷に入っては郷に従うと言う様になるべく現地のルールに従って行動することを頭に入れておかなければならない。道を横断する時にバイクに注意する、不用意に立ち止まらないなどである。

現地で活動する際ホーチミン師範大学の日本語学部の学生と行動を共にした。ベトナム人学生の協力が無ければこのフィールドスタディの目的が果たされなかったかもしれない。最終発表に向けての情報収集、ベトナム語の挨拶の助言など積極的に取り組んでくれる学生が多く、発表がとても有意義にできたことは本当に良かった。しかしその発表するにあたり発表のテーマを固める段階で少し手間取った所があったので、日本にいる準備期間からテーマをもう少し固めておけば良いと思った。

ベトナムで様々な体験をして日本に帰国したが、やはり短期間のフィールドスタディと雖もとても充実したものであり、学んだ事は多かった。その中で自分が成長したと思えることはフィールドスタディで何を学びたいか、それを学ぶためにはどう行動すれば良いかを自主的に決めて実行することが出来た点と海外へ行くにあたり適度な恐怖感を持てるようになった点である。恐怖感を持つというのは海外に行った時に貴重品の管理や、行く前に保険に加入する等自分でできる自衛をすることを意識すると言う事である。それが出来て初めて学習活動ができると考え、最低限意識できたという事で成長できたと考えた。しかしその反対にベトナム人学生に積極的に話しかけられなかった点など成長を感じられなかった部分もあった。



ホーチミン師範大学↑→



先生への質問メモ

ベトナムの結婚式衣装



ホーチミン市博物館



ホーチミン師範大学生と三重大生



プログラム修了式



VFSに参加してみても…

工学部 建築学科 2年 西川侑見

「VFS楽しかった！」2015年度、2016年度のVFSにたまたま何人かの知り合いが参加していました。これを聞いてVFSに興味を持ち、説明会行ってみようかなと思ったことが最初の理由でした。説明会に行くとさらに興味が出て、行くことを決めました。しかし一人で申し込み友人がいなかったこと、初めての海外などたくさんの不安や心配も多かったです。けれど勉強会には積極的に参加することでその気持ちはどんどん薄らいでいき、待ち遠しい気持ちでいっぱいになりました。

いざホーチミン市に到着すると、そこは異国の空気でした。街並みも行きかう人々も匂いも日本では味わったことがなく、全てが魅力的でした。その中で最も私の心を惹きつけたものは、知り合った学生さんたちです。

このプログラムはホーチミン市師範大学の学生と協力してフィールド調査をし、発表することを目標としています。調査を行うためにはグループごとに、日本人はもちろんベトナムの人とも何度も話し合いをする必要があります。日本語学科の学生さんといえど、私たちがしたいことを伝えて話し合うことは非常に難しいです。初回の話し合いは日本人側もベトナム人側を混乱していました。私はその時「全部こっちに任せてくれれば、やるのに。そうしたら今よりもずっと調査は進むのではないか。」と考えていました。そしてベトナム人のリーダーにそのことを申し出ました。その子も明らかに大変そうだったので、この申し出を受け入れてくると思っていました。しかし、その子の返事は予想外でこの研修で一番心に残っています。

「なんでそんな悲しいことを言うの！私たちのことをもっと信じてほしい！あなたたちが思っていること全部言ってほしい。そうしなければ友達とは言えないでしょ？私たちは仲間で友達になりたいの！ビジネスの相手じゃないの！」

出会ってから間もないにも関わらず、ここまで思ってくれていること、それを躊躇なく伝えてくれることが衝撃的でした。私はそこから「どんなに大変だとしてもちゃんと向き合おう」と考えを改めました。初回の話し合いはまさに『ぶつかり合い』で、何も決まらずに時間になってしまいました。その日の夜、私はどうしたら皆に伝わるのかを考えました。「言葉でコミュニケーションが取りづらいなら、図や絵を使ってみよう！」、「あっちの立場ならどんなことに疑問を持つだろうか、ある程度シミュレーションしておこう！」と大変でしたが、やりがいがありました。3日目からの話し合いは順調で、お互い思っていること・工夫を出し合え、順調に進んでいきました。フィールド調査は私たちの班は工場見学と公園にアンケート調査に行きました。スケジュール管理やバスの運転手さんとの連絡など裏方の仕事は、海外で意思疎通が難しいということもあって思い通りにいかないこと

だらけでした。けれど慌てずにお互いの状況を聞くこと、向き合うことで無事に工場見学は終わりました。

公園のアンケート調査は、あとから聞いたのですがベトナムの学生さんも初めて行ったそうです。話し合いのときに、「どこに行えば市民はアンケートに答えてくれるのか」「何時に行えば市民はいるのか」などを綿密に決めました。それは決して日本人側だけが仕切ってしまうとわからないことで、ベトナムの学生さんと一緒に考えたから成功したのだと思います。現地の方はベトナムの学生さんがアンケートを行ったのですが、観光客の方に慣れない英語でアンケートする、英語も通じない観光客の人にジェスチャーで伝えるというちょっとした挑戦もありました。

VFS を通じて、「人と向き合う」という意識が変わりました。VFS に行く前までは避けてしまっていたのですが、今は向き合う大変さ・大切さ・楽しさを知りもっとまわりの人や自分と向き合っていきたいと思います。



ベトナムフィールドスタディを振り返って

教育学部 学校教員養成課程 理科教育コース 3年 伊藤悠斗

ベトナムフィールドスタディへの参加を希望する理由は主に2つありました。1つ目は、2年生の頃に履修した授業でベトナムの留学生との交流があったからです。ベトナムの留学生たちは、自分の国の教育を変えるという強い意志をもち、すべてを吸収して帰ろうと貪欲に学ぶ姿がみられました。また、ベトナムの学生が母語でないにも関わらず、流暢に英語で話す姿をみて、自分の英語力の低さを痛感し、ベトナムはどんな国なんだろうと漠然とした興味を持ちました。2つ目の理由は、日本とは異なる場所にいくことで、社会状況や、文化、気候、食べ物、町の様子など日本との違いを肌で感じられると思ったからです。また、実際にベトナムに行くことで、インターネットや本の情報からは得ることのできない、貴重な体験ができるのではないかと考えていました。

2つの理由を挙げてみましたが、本当の理由は前回のフィールドスタディに参加した友達に話を聞いて「楽しそう！」と思ったからです。

フィールドスタディを終え、私は心の底から、参加を決めて本当に良かったと思っています。ベトナムの現地でしか味わえないような貴重な経験ができたから、ベトナムの歴史や文化について知れたから、と理由は数多く思い浮かびますが、やはり私にとって一番大きな理由は、たくさんの素晴らしい出会いを得ることができたから、というものです。

今回は、市範大学の多くの学生とほとんどの時間を過ごしました。中でも同じ教育グループのメンバーとの交流が一番心に残っています。初めて、教育グループのメンバーに出会ったとき、メンバーのほとんどの学生が日本語をしゃべることができない状況で、私達が何をしたいのか、ほとんど伝えられず、果たして上手くやっていけるのだろうかと不安に駆られました。

ベトナムの学生は私達の話に一生懸命耳を傾け、私たちの考えや思いを懸命に分かろうとしてくれました。その姿勢を見て、初めは不安だった気持ちが、自然と上手くやっていけるという前向きな気持ちと楽しさに変化していきました。グループでの活動時間以外にも「どこに行きたい?」「何が食べたい?」と聞いてくれたり、実家かから送られてきたフルーツを振舞ってくれるなど、私たちのことを気遣ってくれ、そのやさしさに心打られました。ベトナムの日本語教育を調べるに当たって、師範大学の日本語の授業に参加しました。ベトナムの学生は授業に遅刻するなどルーズな部分もありますが、学ぼうとする意欲が私に比べて遥かに高いと感じました。なぜ学ぶ意欲があるのか、それは楽しんで学んでいることが一番大きな理由だと学生の話聞いて感じました。学生は、日本の映画やアニメなどを使って、楽しみながら、言葉を学んでいました。授業は、教科書で学ぶだけでなく、日本の映画や日本の広告を用いたり、生活の中で役立つように工夫されていました。また、一方的な講義の授業でなく、教員と学生の距離が近く、常に問いかけ、学生たちに考えさ

せる時間が多くとられていました。ベトナム語の日本語教育について知る目的で授業見学を行いました。結果的に私達が受けてきた英語教育に対する考えを深めることになりました。また、私自身も、ベトナムの学生達のように、楽しんで学ぶことを忘れずに、日々努力していきたいと思いました。

今回のフィールドスタディでは、ベトナムの貧困問題に触れる機会はほとんどありませんでしたが、ストリートチルドレン友の会でインターンを行っている学生から、ベトナムの明るい面だけでなく、様々な問題があることに気付かされました。市範大学学生との交流によって、その国の本当の姿を知ることができました。

グループでの発表準備のときに、説明が伝わらず 20 分ぐらい理解し合うのに時間を要するなど、数多くの言葉の壁にぶつかり、説明を諦めようかと思うことがありましたが、思いが伝わったことを鮮明に覚えています。また、伝えようとするだけでなく、相手の思いを理解しようとする姿勢が大切であると交流を通して思いました。

ベトナムでの 10 日間は毎日が充実したもので、素敵な出会いも含め、貴重な体験をすることができました。また、ベトナムが大好きになりました。ベトナムで得たもの、感じたものを無駄にすることなく。これからの生活にいかしていきたいと思えます。



おわりに

三重大大学国際交流センターが主催するベトナム・フィールドスタディ（以下 VFS）プログラムの歴史は長く、2010 年から第 9 回目にもなります。ストリート・チルドレンの NGO で 20 年余り携われた吉井美知子先生（現：沖縄大学）が開始され、2014 年に JICA のベトナム支局で勤務されたご経験もある長縄真吾先生に引き継がれました。長縄先生が JICA へ戻られることになり、ベトナムに詳しい専門家が在籍しなくなったことで、VFS は実は幕を下ろすことになるはずでした。それが存続されることになったのは、参加学生のおかげなのです。2015 年 12 月に実施した「海外研修報告会」で、VFS 参加者らは熱意にあふれた報告をし、それに感動した関係者の思いがあり継続が決まりました。

ですが、問題は引率者です。ミラクルのようですが、国際交流の仕事でベトナムへ十数回も行かれた経験を持つ教養教育機構の奥田久春先生に引率をお願いできることになりました。改めまして、快諾してくださった奥田先生と機構に心からお礼を申し上げます。

さて、奥田先生率いる新しい VFS プログラムは、先生のご経験と理想が反映された、少々欲張りとも言えるほど充実したプログラムとなりました。それ以前に、奥田先生がいらっしやらなければ、オートバイの波を分けて道路を渡ることさえ無理だったでしょう。

私も引率として参加させていただいたとはいえ、学生と共に多くのことを学び、刺激を受けました。ベトナムというと、ベトナム戦争や貧困という負のイメージもありますが、近年のめざましい経済発展を支える若いエネルギーに溢れる国でもあります。少子化や高齢化問題を抱える日本にとって、今や大事なパートナー国です。そして、今回の参加者はほとんど女子、が語っているように、豊かな食文化やお洒落な雑貨の数々。そのようなベトナムが持つ歴史と文化の断片は、VFS に参加するまで頭のなかで個々のものでしたが、帰る頃にはそれら全てが繋がっていました。惨憺たる戦争を耐え忍んだベトナムの人々の強さの基盤は、おそらく「日常生活の衣食住を重視する文化」にあったのでしょう。若い参加者の皆さんは、もっと多くのことを研ぎ澄まされた五感で学んだことと確信しています。

今回の VFS では、募集時のチラシや広報には特にメッセージ性を加えず、異なる興味を持った学生が入りやすいように間口を広くすることにしました。それも功を奏したのか、強い好奇心を持つ、個性的なメンバーが揃いました。皆さんとの 10 日間はある意味「ドラマ」を観ているようでもありました。バックグラウンドも、興味も、得意なことも、不得意なことも様々な、メンバーの旅物語。大黒様のような風格のある看護師さんの卵（現：三重大病院勤務）に恵まれたのは幸いな事の一つだと思います。最後まで仲良く過ごすことができたのは、「強い好奇心」だけでなく「おもしろ心」が共通して皆さんにあったからです。

参加者の方々の精神的な成長も、見ていて劇的なものがありました。特に、「問題解決力」と「リーダーシップ」、そして「コミュニケーション能力」に関してです。ベトナム人学生とフィールド研究をする頃には、皆が臨機応変に行動し、必要な時は大声も出して指示し

あう、という光景が見られ 10 日間でこれほど変わるものかと感心しました。

今回の VFS も、三重大大学の協定校であるホーチミン市師範大学の先生方と学生の方々のご協力と尽力がなければ実現されませんでした。VFS プログラムのために学長ご出席のもとで開校式が実施され、3 日間にわたる講義、フィールドスタディ、ホームステイ、そして心のこもった楽しい閉講式と修了証書の授与。他にも、水上人形劇を含む訪問先のチケット予約、ホームステイ先の交渉、等々。担当してくださった Nga 先生、実際にお世話をしてくださった Trang 先生のご尽力とホスピタリティには感謝の言葉も見つからないほどです。三重大だけでなく日本の大学が次々に訪れており、Trang 先生はお若いといっても相当お疲れであったと思います。ですが、疲れた顔は決して見せず、いつも輝くような笑顔で接していただきました。そして、Lieu 先生による専門性の高い「ベトナム文化」の講義。熱心に聞き入る参加学生と共に惹き込まれました。閉講式でされたお話も、先生の深い教養と哲学が感じられる内容で、アオザイを美しく着こなす華奢な先生がとても大きく感じられました。上記の先生方は皆颯爽とオートバイを乗りこなされるのですが、優しいだけでなく逞しいベトナム人女性らが国の発展を支えていることも学びました。

そして、ベトナムという国の未来を明るくさせているのは、子どもたち、そして学生です。師範大の学生の方々からも私たちは色々なことを学びました。彼らは日本語学科に所属していることもあり、日本語だけでなく、日本という国について「何でも知りたい、学びたい」と次々に質問してくれます。話す言葉がわからない事はすぐにアプリで検索し、新しい知識をノートにメモしていきます。学ぶことに対しての情熱と純粋な瞳を持ち、優しさに溢れた学生らがベトナムの未来の原動力になっているのだと実感しました。

話が尽きないのですが、私達が師範大学を訪問した数日前から勤務されていた日本語教員の丸山先生は、なんと三重大の教育学部出身とのことでした。グローバルに活躍する卒業生に出会えるなど、今回の VFS プログラムは、様々なミラクルに守られながら、特に問題や急患もなく無事終了することができました（ミラクルの一つは、私事ですが、会いたいと思っていた韓国在住の親友に、水中人形劇の小屋で偶然に再会したことです。）

参加者の皆さん、VFS での経験を通じて広げた視野を狭めず、ベトナムで得た友情の数々を大切にしてください。そして、今後も様々な事に挑戦してくださればと思います。

最後になりますが、改めまして、ホーチミン市師範大学の学長ならびに関係者各位、そして学生らのフィールド研究で数時間にわたりご協力いただいたエースコック・ベトナムのご担当者様、その他学生を快く受け入れて下さったすべての皆様に心より厚く御礼を申し上げます。今後も三重大、そして VFS プログラムをよろしくお願い申し上げます。

(栗田聡子)



覚林寺にて (3月2日)



みんなで踊りました



無事に帰国しました

卷末資料

1. 日直の業務：

- ① 朝の集合時の点呼
- ② ベトナム語・文化の授業の際に担当の先生との連絡係
- ③ 訪問先でチケットを買い、配布する
- ④ バス乗車時や集合時の人数確認

	午前	午後
2月26日(日)	牧 知香	吉田 奈央
2月27日(月)	栗林 美波	繁田 怜奈
2月28日(火)	森田 真衣	福井 彩帆
3月1日(水)	前田 奈那	宮崎 茜
3月2日(木)		
3月3日(金)		
3月4日(土)	西川 侑見	
3月5日(日)		
3月6日(月)	伊藤 悠斗	眞鍋 岳男
3月7日(火)		

2. ホーチミン市師範大学との合同フィールド調査グループ分け：

グループ1：教育グループ

三重大学生	ホーチミン市師範大学生
伊藤 悠斗	PHAN TRUNG LÝ
牧 知香	VÔNG SIU HÀNH
	LÊ PHƯƠNG HẠ
	NGUYỄN THỊ HUYỀN VI
	ĐẶNG QUỐC TOÀN

グループ2：歴史・宗教・伝統文化・生活グループ（1）

三重大学生	ホーチミン市師範大学生
眞鍋 岳男	HUỖNH THỊ THU TIỀN
吉田 奈央	NGUYỄN THỊ THANH THUY
	NGUYỄN THỊ THANH TRÚC
	NGÔ DŨ TRƯỜNG KIM
	LÊ THỊ MỸ THẢO
	NGUYỄN HUÂN TUỄ MI
	PHÙNG THỊ NHƯ NGỌC

グループ3：歴史・宗教・伝統文化・生活グループ（2）

三重大学生	ホーチミン市師範大学生
繁田 怜奈	PHẠM THỊ HỒNG NHUNG
宮崎 茜	NGÔ SĨ XUÂN DUY
	NGUYỄN PHÚ THỌ
	NGUYỄN ĐẶNG HOÀNG THƠ
	HỒ HUỖNH THUY TIỀN
	BÙI THỊ MỸ XUÂN
	TRẦN ANH DŨNG

グループ4：都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ（1）

三重大学生	ホーチミン市師範大学生
西川 侑見	VÕ PHẠM NHỰT DUY
栗林 美波	DUƠNG THỊ THƯƠNG
	NGUYỄN HỮU THU MINH
	PHẠM THỊ NGÀ
	NGUYỄN PHI YẾN
	NGUYỄN ĐẶNG THUYỀN DƯƠNG
	TRƯỜNG TẠ PHƯƠNG UYÊN

グループ5：都市計画・建築、経済、環境、日系企業グループ（2）

三重大学生	ホーチミン市師範大学生
森田 真衣	NGUYỄN VŨ PHƯƠNG UYÊN
福井 彩帆	NGÔ TUYẾT NHƯ
	NGUYỄN NGỌC HẠ VY
	TRỊNH HOÀNG ANH
	LƯƠNG BẢO DINH
	ĐINH NGUYỄN QUỲNH ĐẠO
	TRƯỜNG THỊ NGỌC THẢO
	ĐẶNG HOÀNG VI

3. 修了証書授与式

ホーチミン市師範大学長名による修了証書（授与者は

Le Thuy Lieu 先生)



Xin chúc mừng

